

聖徒の道

12

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第12号 1964年12月1日発行 SEITO-NO-MICHI



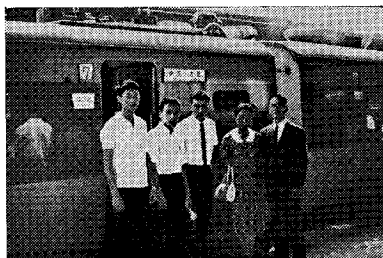
聖徒の道

第8巻
第12号

1964年 12月号

— も く じ —

予言者のことば	638
伝道部長メッセーじ	641
末日聖徒イエス・キリスト教会 歴史粹	645
札幌支部訪問記	652
伝道本部だより	656
支部だより	658
建築宣教師を終えて	661
系図のページ	664
伝道部扶助協会会長	670
扶助協会レッスン	671



上野山一家
(阿倍野支部)



大管長 デビッド・O・マッケイ

私たちは善いこと、真実なこと、
美わしいことを追い求めて神をあ
がめようではないか、神が私たち
に示したもうたと同じ善意を実行
して地上に平和を確立する努力を
しようではないか。

予言者のことば

平和とクリスマスについて

大管長 デビッド・O・マッケイ



わたしたちはまた今年もめぐまれて、天の軍勢が神をたたえて「いと高きところでは、神に栄光があるように、地にはおだやか、人には善意があるように」と言った時のことを世の人々が思い出す季節を迎えることができる。

わたしたちは基督・イエスを拝する。わたしたちは霊にかかわる能力を発達させたいと思うからそうするのである。わたしたちがそうするのは、基督・イエスが「偉大なる師」、「ベツレヘムのみどり児」、およびあらゆる力を結集しても及ばぬほどの力を以て人類を指導してきた「一つの力」であるばかりでなく、実に基督・イエスはわたしたちの「主なる救い主」であるからである。

「救い主」と共にある偉大な原則の一つは「平和」である。「救い主」はかの「山上の垂訓」において「平和をつくり出す人たちは

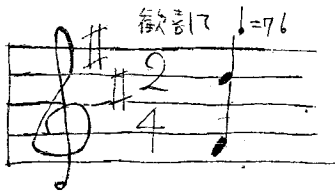
さいわいである。彼らは神の子と囁かれるであらう」とおっしゃった（マタイによる福音書五〇九）。またその生涯の幕を閉じようとするころ弟子たちに「これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたはこの世ではなやみがある。しかし勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」と仰しやうった（ヨハネによる福音書十六〇三三）。また同じときに「わたしは平安をあなたがたにのこして行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな。またおびけるな」と仰しやうった（ヨハネによる福音書十四〇二七）。イエスの全生涯を通じて、平和ということはいつもその唇に上り、平和という観念はいつも心に抱かれていた。イエスのもって居られた平和とはどのようなものであったか。平和とは個人にあっては心になやみのないこと、家庭にあっては口論のないこと、国家にあっては争いのないことである。「救い主」の教えたもうた平和は、社会に関する平和であると同様に個人に関する平和でもある。キリストのささやきたもうみ声に忠実でない人、自己の良心の教える声に従がわない人はけつして平和ではない。わたしは心理学者が良心は必ずしも安全な指導者ではないが、人間のもつ最上のものであると言っていることを知っている。人は、より良い自分（良心）の声に従がわないとき、また自らを処するに当り、肉の誘惑にまけ、激情または欲求を満足させて義の法則をやぶろうと、あるいは他人をとりあつかうに当り信頼にそむいて義の法則をやぶろうと、いずれの時にでも平和ではあり得ない。

平和は律法（おきて）をやぶる人には来ない。平和は律法（おきて）に従がうことによって得られる。これこそイエスがわたしたちをして人類の間に確立させ、わたしたちをして世の人々に宣言させたいと思つて居られることばである。個人にあっては彼が神とやわらぐための平和、また彼自身が支配されけつしてのがれることのできない義の律法（おきて）との間にある完全な調和、家庭の平和、家族と隣家との口論をしないで隣人と平和にくらす家族、家庭に入りこんで不和と不幸を生ずるつまらぬ嫉妬と野心的な望みと名譽心とを持たぬようにする努力父と母、父と子、母と子、夫と妻との間にある家族間の平和——これが今月世の人々がいつもその誕生を祝うお方（イエス・キリスト）が宣べ伝えたもうた平和の福音である。

イエスは兄弟愛を確立するためにこの世へおいでになった。イエスは国と国との差別を知らず、また人をかたよつてごらんにならなかつた。イエスはベテスダの池のほとりて、自分で動くことのできない病人をおいやりになり、また罪におち入つたために独善的な人々から石でうち殺されようとした女にまで「お帰りのない。今後はもう罪を犯さないように」とお言いになった。貧しい人々や困っている人々がイスから親身（しんみ）の愛を受けたばかりでなく、富んでいる人々もイエスから親身（しんみ）の愛を受けた。イエスが「十二使徒」をつれておいでになったときに、人々の頭ごしに見ることができるようになるにのぼつたザアカイは裕福であつたが人からさげすまれていた取税人であつた。そのザアカイに対してイエスはお言いになった「下りて来なさい。きょう（わたしは）あなたの家にとまる

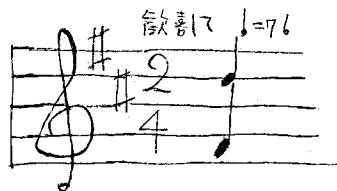
ことにしているから」(ルカによる福音書十九〇五)。わたしたちはザアカイの家でどんな会話がとりかわされたかそれは知らないが、ザアカイが心に感動を受けて「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。またもしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」と言ったことを知っている(ルカによる福音書十九〇八)。これこそ親身(しんみ)の愛の精神である。イエスはこれに答えてお言いになった「きょう救いがこの家に来た……」と(ルカによる福音書十九〇九)。

あなたがたのみならず、世界中の人々に、神がこのクリスマスの子節をめぐみたまわんことを。全世界に在るわが兄弟姉妹たちの心に平和があるように。「親身(しんみ)の愛」の真精神がいつもあなたがたの導きであるように。嬉しいクリスマスがあなたがた一人一人と共にあって、楽しい幸運な新年を迎えるようにへりくだって祈り奉る。

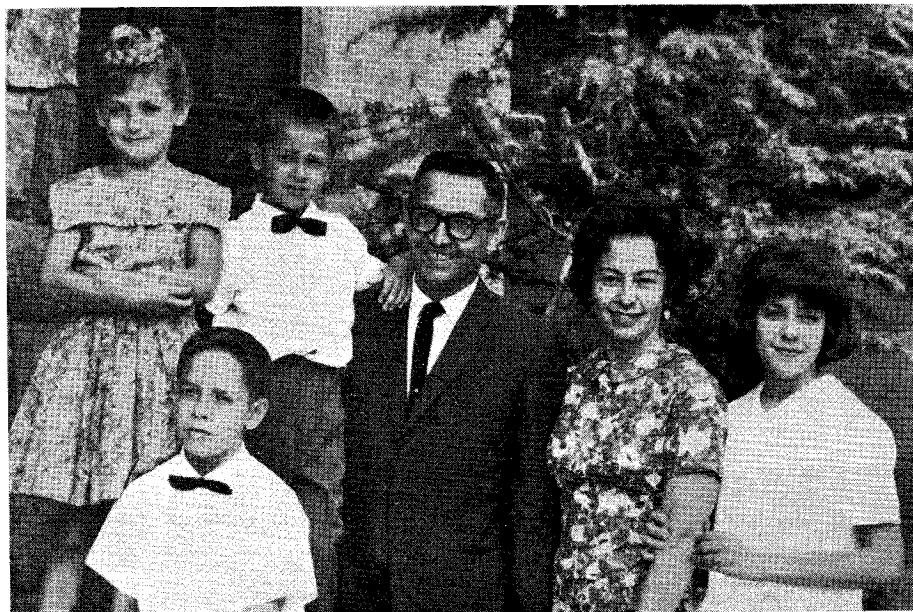


天つ神の子と　いつきむかえ
救いの主とぞ　ほめたたえよ
ほめたたえよ　ほめたたえよ

もろびとこぞりて　迎えまつれ
久しく待ちにし　主は来ませり
主は来ませり　主は、主は来ませり



伝道部長 ダウエン・N・アンダーセン



十二月になると、私たちは千九百年以上前に此世にお生れになった幼児キリストのことをまた考えます。キリストの誕生はこの幼児がだれであるかを知って居り、またキリストの使命について伝えることばと、キリストの使命の目的とを知っていた人々の生活にひじょうに大きな意義をもって居ります。この幼児こそ「神の御子」であって、アダムを罪をあがない、またわたくしたち一人一人がその罪をゆるされて「天の父なる神」の御前に帰って行ける道をそなえるために此世へおいでになりました。キリストは今も生きたまい、その予言者デビッド・O・マッケイを通して末日聖徒イエス・キリスト教会に関するいろいろな事を指導しておいでになります。キリストの伝えたもう御ことばは、無数の人々がその御わざを頭に画きあかしを得るとき、毎年その人々の生活に喜びを与えて居ります。まことに幼児キリストについて伝えられたことばは人間の生活を変える力をもって居ります。南アメリカ伝道部長でありまた「七十人の最高評議員会々員」のA・テオドーア・タットル長老は、最近ソルトレーク市で開かれた総大会ですばらしいお話をなさいましたが、それはあの「クリスマス」の話の奇跡と同じ奇跡をはっきり示している、と私は考えます。では、タットル長老のお話から引用したいと思います……。

「わたくしたちは南アメリカに滞在していたうちに、人々の間にもまた国々の間にも起った意義深い変化を目撃しました。しかし、福音を伝えられた人々の生活に起った変化の中で一番大きな変化は、何と言っても教会と社会の基である家

族の生活と経験の中に起った変化であると思います。最近教会員になつたある男の人は次のように言っています（その男の人の話は次の通りです）……

『わたくしの家にあの宣教師たちが訪ずれて来る前は、わたしは世間の亭主がふつうにやっている役割だと思つていた通りの生活をしていた。わたしは職があつて妻子を養つていた。仕事がすんで家へ戻ると、わたしはこれで妻子に対する責任はすんだと思つていた。家に居たいと思えば家に居たし、家に居たくないと思えば家に居なかつた。たいていは家に居ない方であつた。そして、わたしは自分の時間の多くを家のそとで費やした。わたしは、子供たちを育てるのは妻の責任だと考えていた。妻は子供たちに食べさせ、着物を着せ、また世話することに氣をつけているはずであつた。妻は時々子供たちを自分の教会へつれて行く習慣があつたが、わたしは彼らが宗教について決心をするのは（わたし自身がそうであつたように）完全に自由であるはずだと思つていた。わたしは彼らの宗教的活動に公然と反対をしない一方、何のはげましも与えなかつた。わたしと妻とは相愛していたにちがひなかつたが、わたしは愛しているという証拠を一つも与えなかつたことを白状する。わたしは、自分たちの世界が二つの離れ離れの世界であると本当に考えていた。わたしは自分の世界があり、妻と子供たちには彼らの世界があつた。子供たちが大きくなつたら、わたしのやつていることに加わることが出来るだろうが、それまでは母親の世界に属している、とわたしは考えていた。子供たちに必要なしつけを施すのは妻の義務であつた。時々わたしの夫としての権威を必要とする事態も起つた（そして、それは間もなく片つづのがふつうであつた）が、それ

は例外であつて妻のすることにわたしは干渉しなかつた。まあ、それがわたしの家庭生活というものであつた……。

『今からその時のことをふり返つてみると、わたしは自分の家に居ながらほとんど第三者のようであつて、妻に対しては「パートタイムの夫」であつた。そして、回復された福音を教えられているうち、わたしは自分の生活のあり方を変えることが出来るとは思わなかつた。いや、出来るだろうとも思わなかつたし、変えたいとさえ思わなかつた。わたしの生活のあり方に変化が起るのが間もなく避けられないことを知つたのは、わたしが福音の勉強と祈りを始めてからのことであつた。とうとう、わたしはイエス・キリストの福音がまことに回復された、そして今日地球上に生ける予言者があるというあかしを受け入れた。これがわたしにとって一つの転機であつた……。

『わたしの生活に、いやもつと正しく言えばわたしたちの生活に本当の変化が始まつたのは、わたしがバプテスマを受けてからであつた。今はどうにかして、わたしたちの結婚生活にあるはずであつた「一体となること」が本当に現実となつた。そうなつたわけは、わたしが結婚の神聖なことを悟り始め、わたしが結婚のときにした誓約を守らねばならないことを悟り始めたからだと思つている。わたしは、自分の妻に対して誠実であることと、自分の子供たちに尊敬されることが、大切であることと喜びであることを教会で教わつた。ただ主の誠命を守りさえすれば、毎日の生活に喜びがあるとすること、だれもわたしに話してくれなかつたことをあなたは知つてゐる。わたしはかつて、悲しみと苦しみと貧しさが人の世の定めである、次の世へ行つて始めてこの世で切望していた喜びがあると教わつてゐた。わたしたちがつづいて教会の集りに出席している

うちに、活発な教会員の日常生活とはどのようなものか、神学の諸原則を日常生活にどのようにして実際にあらわすかということを知った。今わたしたちは、教会におけるいろいろな奉仕の呼び声にこたえることによって、今までに教えられているいろいろな徳を行なう多くの機会にめぐまれている。

『わたしは始めて、わたしの息子たちがどのような人になれるかを悟った。わたしは、わたしの家へ福音を伝えに来た宣教師たちを産んだようなふんい気の中で、わたしの息子たちを育てることができるとを悟った。そこで、わたしは自分の息子たちに道徳の原則を教えることにとりかかった。わたしは彼らに、うそを言うこと、盗むこと、十誡のうちのどれを破ることも悪いということを教えた。わたしは今、隣人を愛するということが実際にどういうことであるかを知っている。彼らにこの原則を教えた。わたしは彼らに神聖な場所と物とをうやまうことを教えた。わたしは今、彼らに教会の活動をするように奨励をしている。わたしは彼らに、宗教は女だけのためのものではなくて、人格と神を信ずる信仰とは「本当の男」であることを証明する「極印」(「こくいん」)であることを教えた。わたしたちは、家族がみな一しょになって楽しみをすることを始めている。わたしは彼らの世界の一員となった。わたしは彼らのことばを話し始め、彼らのことばを理解し始めている、それは本当だ。わたしはこの教会の会員になってから、人生についておぼえたことを、すっかりあなたに話し始めることはできない。わたしは今人生の目的を(体験によって)知っている。また「永遠の生命」を得る道を確かに知っている。これまでまことに短い間であったが、教会の教えはそれをわたしに教えてくれた。しかし、おもな変化が

起っているのはわたしの家庭の中である……

『わたしはいつもの通り働らきに行く。しかし、いつもきちんと家に帰ってくる。わたしは家庭生活に活潑に加わる人であるだけでなく、神権をもっているという権能によって家庭を「管理する者」である。またわたしは、愛と忍耐と理解とによって神権の権能を行使することについて今いくらか学んでいるところである。あなたは信じないであろうが、わたしはこれまでより忙しいようであっても(今支部長会の副支部長の役についている)、いまでもよりも時間に余裕があるように思える。なぜか、わたしは時々妻の台所仕事の手伝いをしているが、それはかつてわたしのしたことでないと思っていることである。家庭生活と家族の単位が永遠であることを知ったので、わたしは家庭生活が重要であるという完全に新しい考えを与えられた……』

『そこで、(嬉し涙に目をうるませながら)あなたはわたしが喜んで主に仕え、教会で働らき、またこのような幸福をわたしに与えた福音のことばをほかの人々にも同じように伝えようとしているわけが、今おわかりになれると思う……(この話を終ってタツタル長老の話をつづけます)。

『わたくしたちはこの変化が一人だけでなく文字通り何百という家族に起っているのを見ています。実際に、宣教師たちは、自分たちが訪問をした人々の家は、もつと福音について教えるにまた訪ずれる毎にきれいになって行くことに気がつく(家の清掃については何にも言ったことがないのに)という共通の経験をわたくしに報告しています。これはモルモン教の奇跡の一つであります。これとまた同じようなあらわれは引きつづき起っています。ヨブ記の中に

は「人のうちには霊があり、全能者の息が人に悟りを与える」と言
つてあります（ヨブ記三二〇八）。人の霊に対する福音の光の作
用は、花に対する太陽の光と同様であつて、内から開いて光の源に
向かわせます。福音の光は人間の内なる生活に触れて、強制するこ
となく人をして自ら光と真理の源に向かせます。しかも人は、花の
開くのを目で見て、この原因を見つけることができません。むしろ
人は成長と変化の奇跡を為しとげる光の源に目を向けなくてはな
りません。まことにそれは「最初の見神」の中でさんさんと輝やく
もの……人の心を動かして、神のみたまの導きに応じさせるものを
信じてすなおに受け入れることであります。

家族生活は変わる、それは外の条件によるのではなくて、内部の
（心の中の）確信によるのであります。それで、この変化の理由を
外にあらわれた証拠に求める者は何も見ることができません。その
理由は外にあるはずがありません。その理由が、教会が建てている
新しい建物にあるのではありません。教会が全世界にわたつて建て
た学校にあるのではありません。わたくしたちの教会の組織は完全
であるけれども、その組織にあるではありません。またそれは、
青少年計画、初等協会、扶助協会にあるのでもなく、神権定員会の
兄弟愛にあるのでもありません。人間の心に起る変化の鍵を、
外のあらわれに求める人は何も見ることができません。予言者エリ
ヤは主のみ声を聞きましたが、エリヤはそのみ声を風の中にも地震
の中にも、火の中にも聞きませんでした。エリヤが聞いた（主のみ
声は）静かな細い声でありました（列王紀上十九〇十一―十二参
照）。人間の心を愛える力は、人間の心にふり注ぐあかしの中に本
来そなわつたものであつて、少年予言者ジョセフ・スミスの「最初

の見神」はまことに神聖な事実であつたことを人々にあかしするの
であります。今「ジョセフ・スミスの見神録」の一節を引きますと、
予言者ジョセフは次のように言つて居ます。

「私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。
そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にふり注
いだ。その光の柱が現われるや否や、私はわが身を縛つた敵から救
い出されたことに気がついた。そしてその光が私の上に留つたと
き、私は筆紙につくし難い輝やきと栄光とをもちたもう二人の御方
が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が
私に言葉をかけて私の名をよびたまひ、他のお一人を指して『こわ
わが愛子なり。彼に聞け』と仰せられた」。ここに家族を改善する
鍵があるのであります。ここに成功を期待することができ理由が
あるのであります。ここにこの（まことの）教会が世界の人々にさ
さげるもの、すなわち「理想の家族」があるのであります」（タッ
トル長老のお話終り）。

福音の兄弟姉妹よ、あなたがた一人一人が、今月わたくしたちの
思い出しているキリストのみ教を固く守つてあの「理想の家族」
を現実にあらわすことができますように、またあなたがたが、キリ
ストの福音をほかの人々にも伝えて共にそのめぐみにあずかること
ができますようにお祈りいたします。



末日聖徒イエス・ キリスト教会歴史粹

第四部 ノーヴァー時代

第二十八章 外国伝道

四、宣教師の出發（つづき）

このほかの宣教師の状態もほとんど同じようにみじめであった。ジョージ・A・スミス長老とその同僚たちは（出發をして）コマースの村が見えなくないうちに、彼らの馬車をやわらかい土の中へひっくり返してしまった。ところがスミス長老とターレー長老とは起き上れないほど弱っていたので、ヘッドロック兄弟は（手を貸して）二人をまた馬車にあげてやらなくてはならなかった。それから間もなく、二人が進んで行くと、この二人とすれちがった人々が「墓場を荒らしたのは誰だ」と言ったくらい、二人の様子は（泥だ

らけで）みじめなものであった。

註。話す価値あるもう一つの出来事についてウィルフォード・ウッドラフ長老は次のように述べている。

「十二使徒がはるか西部へ行って何の危害も受けずに戻ってきたので、悪魔はいくらか失敗していたから、彼はわれわれがその使命を行なうのを妨げようとして何かほかの計画をきめたかのように思われる。というのは、十二使徒のうちだれかが出發の準備をし始めると、彼は悪寒がするとか熱を出すとか何かの病気に苦しめられたからである。……」

七月二十五日、わたしは悪寒と熱とに苦しめられて、その攻撃を受けるときいつでも参ってしまった。わたしの妻フェーベは（このとき）始めてわたしの生活の中心に居た（しみじみその親切を感じ

ジョセフ・フィールディング・スミス著

た)。わたしは隔日に病気の発作があつて、十二使徒の多くがかかつたように悪寒と熱とに苦しめられた。……

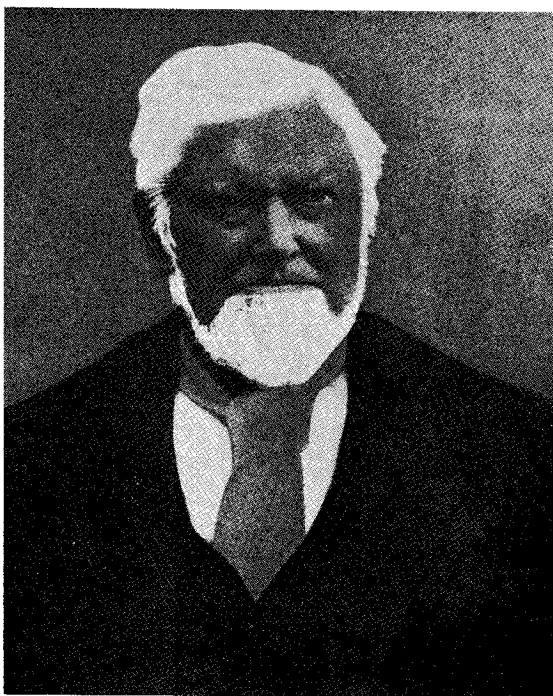
弱つていたけれどもわたしはミシシッピ川の岸まで歩いて行つた。そこでヤング会長（ブリガム・ヤング）はわたしをカヌーに乗せ、ミシシッピ川をこぎわたつた。わたしたちが岸に上つたときわたしは郵便局の側に（つんで）あつた靴底用の皮のそばに横たわつて休息した。すると神の予言者、ジョセフ兄弟がやつて来てわたしをながめた。そして「どうした、ウッドラフ兄弟。君は伝道に出発したんだね」と言つた。それで「そうです。しかしわたしは宣教師であるよりは、むしろ解剖用の死体のように思えたり見えたりするのです」と言つと、ジョセフは答えて言つた「君は何のためにそう言つたのか。立ち上つて出かけたまえ。万事は君のために良く行くにちがいない」……

間なく一人の兄弟が馬車でやつてきて、わたしたち（テイラー長老とウッドラフ長老）を乗せてくれた。わたしたちがそこを馬車で通つて行くとき、わたしたちはパーレー・P・プラットのところへやつてきたが、彼はシャツとパンツだけで頭も足もまる出で働らいて居た。彼は小屋を建てる用意に丸太を斧で切つていたが（わたしたちを見ると）言つた「ウッドラフ兄弟、ぼくは一文なしだが空の財布が一つあるからこれをあげよう」。彼はそう言つと、それを持つてきてくれたのでわたしは感謝してそれをもらつた。わたしたちがそれから少しさきへ行くと（今度は）ヒーパー・C・キンボール兄弟に逢つた。彼も同じ状態で（プラット兄弟のように）小屋を建てるために丸太を切つていたが（わたしにむかつて）「パーレーが君に財布をやつたように、ぼくは今持つている一ドルをその中

に入れてやろう」と言つて、彼（キンボール兄弟）は一ドルのお金と祝福とをわたしにくれた（ウィルフォード・ウッドラフ「その生涯と働らき」百八頁参照）。

主が度々奇蹟的な方法で助けを与えに來たもうたので、財布も旅のふくろも持たないで旅をしながら多くの艱難をのりこえた後、これらの兄弟たちはついにその目的地に到着した。ジョン・テイラー・ウィルフォード・ウッドラフ、テオドーア・ターレー等の長老が千八百四十年一月の十一日リバプールに着くと、ブリガム・ヤング、ヒーパー・C・キンボール、パーレー・P・プラット、オルソン・プラット、ジョージ・A・スミス、リューベン・ヘッドロック等の長老がこれにつづいて、二十四日間の荒天の航海を経た後、四月の八日（リバプール）に到着した。航海中ブリガム・ヤング、ヒーパー・C・キンボール等の長老はまだ健康が回復していなかつたし、ジョージ・A・スミス長老は悪寒になやまされていた。これらの兄弟たちが、この度の伝道旅行に一団となつて出かけることは不可能でもあつたし、また勤められないこともあつた。病氣のために彼らは長い間手間どつたが、それにもかかわらず彼らは事情のゆるすかぎり、できるだけ早い道をたどつた。ヤング十二使徒会々長とその一行がニューヨークの港を出帆するとき、一行を歓送するために集つていた聖徒たちの声が岸にひびきわたつた。聖徒たちは声を合せてウィリアム・W・フルプス長老作曲の『堂々と船は進む』を唱つて一行を送つた。

五、ウィラード・リチャーズの按手聖任。千八百四十年四月十四日英国プレストンで、外地における最初の十二使徒評議員会が開かれた。場所はウィラード・リチャーズ長老の家で、同長老はこの



ウイルフォード・ウッドラフ

評議会の席上、ブリガム・ヤング十二使徒評議員会々長とその場に居合せた全評議員会々員の按手によって長老の職に聖任された。そしてほかの事務が処理され、兄弟たちはそれぞれ働く場所(伝道地)を割り当てられた。またこの席上において、ブリガム・ヤング長老も、十二使徒の兄弟たちから全員一致によって十二使徒評議員会々長として支持された。出席者の名を挙げると次の通りである。ブリガム・ヤング、ヒーバー・C・キンボール、パーレー・P・ブラット、オルソン・ブラット、ジョン・テイラー、ウイルフォード・ウッドラフ、ジョージ・A・スミス、ウィラード・リチャーズ(以上)。

六、「ミレニヤルスター」誌。その翌日、千八百四十年の四月

十五日に、大英諸島に居る全使徒の総大会がプレストで開かれた。この大会の出席者は長老三十六人、祭司四十五人、教師三十六人、執事十一人、会員千六百八十六人であって、これらの人々は千八百三十七年にキンボール長老とその同僚が英国伝道部を開いて以来設立された三十四の支部に属する人々であった。この大会で、教会員に利益と知識とを与えるため十二使徒の指示と監督の下に讃美歌集と月刊誌とを出版することにきまつた。さらにその翌日、十二使徒評議會でパーレー・P・ブラットがその月刊誌の編集者に選ばれたこの月刊誌の名称はザ・ラタデイ・セインツ・ミレニヤルスター」と呼ばれることになって間もなく出版されたが、その時以来引つづき発行されている。また讃美歌集の印刷準備をするために選ばれた委員はブリガム・ヤング、パーレー・P・ブラット、ジョン・テイラーの三人であった。

七、モルモン経の英国における著作権。さきに受けた大管長会の勧告に従い、モルモン経と「教義と聖約」の著作権を英国で獲得することに決定した。また以上の聖典の英国版を出版することも決定した。「ミレニヤルスター」の第一号は、二十四頁から成るパンフレットの形で、マンチェスターにおいて出版された。千八百四十年五月二十七日(水曜日)のことであった。その後印刷する場所がマンチェスターからリバプールに移転したが、リバプールはそれから教会出版物の大部分の本拠となり、それ以来比較的近年までそうであった。

八、英国における最初の祝福師。十二使徒と同僚宣教師との働らきにより、多くの支部が英国の各地で設立されて教会員の数も急

激に増加していた。それで、千八百四十年四月十六日に開かれた十二使徒評議會で、祝福師を按手聖任すべきことを決定した。その名譽は最もふさわしい人であるピーター・メリンゲ長老に与えられることとなり、同長老は翌日プレストンにおいて按手聖任された。すでに千八百四十一年、ジョン・アルピストンもこの神聖な職に按手聖任されていた。

九、十二使徒それぞれの働らき。英国へ着いた最初の宣教師であつたジョン・テイラー、ウィルフォード・ウッドラフ、テオドーア・ターレー等の長老は、英国伝道部の伝道部長会の会員であつたジョセフ・フィールディングおよびウィラード・リチャーズと共に千八百四十年一月二十七日（金曜日）に特別評議會を開いて各自の働らく場所（伝道地）をきめた。その結果テイラー長老とフィールディング長老とはリバプールに、ハイラム・クラーク長老はウィリヤム・クレイトン長老と共にマンチェスターに行くこと、またリチャーズ長老は「みたま」の示したもう所へ行って働らくことに一致した。リバプールでテイラー長老とフィールディング長老とは、アメリカから十二使徒会に属するほかの兄弟たちの到着する前に約三十人の会員のある支部を設立した。この三十人は急速に増加して千八百四十一年の始めには二百人以上となつた。千八百四十二年三月に、伝道部はリバプールへ移された。

十、ヘレフォードシャーで。ウッドラフ長老とターレー長老とはスタッフォードシャーのポタリーズでひじょうに効果の多い伝道地を発見した。ウッドラフ長老は千八百四十年一月二十二日から三月二日まで、バースレム、ヘンレー、ストーク、レーンエンドおよびポタリーズの各地で伝道し、平日は毎晩安息日には二度三度と教え

を宣べ伝えたので、人々はウッドラフ長老を聞こうとしてむらがり多くの者がバプテスマを受けた。

ウッドラフ長老が自分の誕生日に当る三月一日（日曜日）に教えを宣べ伝えていたとき、主イエスが彼に啓示を与えてそこを去つて南の方へ行けと仰せになった。ウッドラフ長老は「みたま」によって靈感を受けた通り、三月の三日にそこを去り旅をつづけてヘレフォードシャーの農村へ行きレゾベリーのカッスルフロムにあるジョン・ベンボウ氏の宅にとまつた。このベンボウ氏は約三百エーカーの土地を耕作している富裕な農家であつた。ウッドラフ長老は、わたくしはアメリカから来た宣教師で末日聖徒イエス・キリスト教会の長老である。福音をあなたとあなたの家族とこの国の全住民に宣べ伝えるためにつかわされたと言って、自分を紹介した。ベンボウ氏はウッドラフ長老のことばを聞いて喜び、わたしの居る所には近ごろメソジスト教会から離れて「ユナイテッド・ブレズレン」と称している六百人以上の人々が居ると言つた。これらの人々は國法によつて認可されている四十五人の牧師と多数の集會所とをもつていた。そしてこれらの人々は「光と真理」を探し求めていた。（これを聞いた）ウッドラフ長老は、時を移さず五日の朝、自分は人々の間で福音を宣べ伝えて自分の働らくべき旨を述べた。ベンボウ氏の邸宅には大広間があつたのでこれをその目的に使うことができた。そして人々は海のかなたの新世界からきた新しい福音のことばを来て聞かれたという招待を持けた。近隣の人々は彼らの牧師をすててこの見なれない宣教師のところへ来てそのことばを聞いたが、わずかの間にその土地で六百人以上の人々がバプテスマを受けた。三月の八日に開かれた集りに、その教区牧師の苦情によつて

派遣された一人の警官が「人々に説教をする」かどでウッドラフ長老を逮捕するためにやってきた。ウッドラフ長老は（この警官にむかって）「わたくしは教区の牧師さんと同様に説教をする免許証をもっています。もしあなたが会の終るまで、わたくしの側に腰をかけていて下さるなら、あなたの望みのままになります、と言った。長老はそれから福音の第一原則をとりあつた説教をし始めた。そして集会が終つてバプテスマを施すために扉を開けると、バプテスマを受けるために数人の人々が前に進み出た。その人々の中には四人の牧師とあの警官が入っていた。その警官は言った「ウッドラフさん。わたしはバプテスマを受けたいです」。

そして、この警官は教区牧師のところへ行ってその牧師に言った。もしもあなたがウッドラフさんを捕えたいなら、あなた自身が行つて令状をわたさなくてはなりません。わたくしは始めて聞いた唯一のまことの福音がウッドラフさんの口から話されるのを聞いたからです。そこで教区牧師は、英国教会の書記を二人スパイとしてつかわしたが、この二人ともバプテスマを受けてしまった。（こういうことになつたので）英国教会の聖職者と教区牧師たちはカンタベリーの大僧正へ請願をして、モルモンがすでに千五百人以上の人々にバプテスマを施したがその多くが英国教会の会員であることを述べて、大英国民に説教をすることをモルモンに禁止する法律を議會で通していただきたいと言った。しかしながら、英国の国法は宗教の自由を許していることをよく知っているのでその請願をした者たちに答えた。もしも彼らが、兎や狐や狼犬が走っている土地を大切にすると同じくらい心の中で人間を尊ぶなら、彼らの羊群（教会員）をそんなに多くは失なうまいと。

ウッドラフ長老以外の兄弟たちもいちじるしい成功を収めた。畑はすでに熟して刈入れ時を待っていた。それで何万というイスラエルの家の者たちが羊のおり（まことの教会にまもなく集つてきた。千八百四十年十月に開かれた大英帝国におけるわが教会の総大会で、教会員数が約四千人に達していることが報告された。その間にすでにいくらかの者はアメリカ合衆国へ移民をしていたのであった。

十一、アメリカ合衆国への最初の移民。千八百四十年六月、四十人の聖徒から成る一隊が「ブリタニヤ号」に乗船してリバプールからニューヨークへむかった。これがシオンへむけて英国を立つた最初の聖徒である。

十二、パレスチナへ宣教師を派遣。千八百四十年四月六日から八日までハンコック郡ノーヴーで開かれた総大会で、ほかの使徒たちと一しょに英国へ旅立たなかつたオルソン・ハイド長老は、パレスチナをユダヤ人の集合地として奉獻するため、パレスチナへ宣教師として派遣される任命を受けた。またこのとき、アメリカに留まっていたジョン・E・ペーじ長老もハイド長老と同行するように召された。その六日（の日の大会で）、会衆に話しているうちにハイド長老は、教年前わたくしはユダヤ人の間で為すべき大きなわざがわたくしにあるという予言を受けたことがある。そして最近わたくしは、ユダヤ人を訪ずれて彼らの動きと希望と抱負とに関するあらゆる情報を集めてこれらを教会に知らせようという靈感を「主のみたま」によつて受けていると言った。そして、わたくしの任地へ行く途中ニューヨーク、ロンドン、アムステルダム等に居るユダヤ人を訪ずれたいという希望を述べた。（そこで）ハイド長老は彼の使

命にすぐ着手し、ジョン・E・ページ長老には正式の信任状を与えてハイド長老と同行させるという動議が提出され会議を通過した。

そして、四月十五日ハイド長老はエルサレムへむけてノーヴーを出発した。ハイド長老は(道路によらないで)山野を横断してニューヨークまで困難な旅をした末、数日おくられて千八百四十一年二月十三日(土曜日)パレスチナへ行くためリバプールへむけて出帆した。ジョン・E・ページ長老はこの旅行に行かなかったのでハイド長老は独りで旅をしたのであった。

十三、その他の宣教師たちの任務。

このような初期の時代にもほかの宣教師たちは外国伝道に行く任命を受けた。千八百四十年七月、十七才の少年ウィリヤム・バレットはスタッフォードシャー、ハンレイにおいてジョージ・A・スミス、アルフレッド・コルドンの両長老から按手聖任を受けて、オーストラリアへ行く最初の宣教師として同地へ派遣されるように特に任命された。これにつづいて八月には、英国陸軍に属するウィリヤム・ドナルドソン長老はインドにおける軍隊所在地へ(行くよう)任命を受けたので、同じくインドで教会のために働らくよう特に任命された。その次の年、教会の総大会でハリソン・セージヤース長老はジャマイカへ行くように召され、ジョセフ・ポール長老は南アメリカ、シメオン・カーター長老はドイツ、アルザ・アダムス長老は以前福音が宣べ伝えられたことのあるカナダへそれぞれ行くように召された。

十四、十二使徒の帰国。

千八百四十一年四月二十日、ブリガム・ヤング十二使徒会々長、ヒーパー・C・キンボール長老、オルソン・ブラット長老、ジョン・テイラー長老、ウィルフォード・ウッドラフ長老、ジョージ・A・スミス長老、ウィラード・リチャーズ長老

および聖徒の一行はつれ立って「ロチェスター号」に乗船、ニューヨークへむけてリバプールを出帆した。しかしパーレー・P・プラットだけは「ミレニヤルスター」誌を編集し伝道部を管理するため英国にのこった。ブリガム・ヤング長老にひきいられた一行は、一箇月の航海をした末、無事ニューヨークへ着き、旅をつづけて千八百四十年七月一日ノーヴーに到着した。これより十八箇月もしくは二十箇月前に、以上の兄弟たちは貧苦になやまされ、心に悲しみを抱いてノーヴーを出発したのであったが、今や彼らは自分たちの働らきの結果を帯びて、心中欣喜(よろこびとうれしさ)の情を抱いて戻ってきた。以上の兄弟たちは無一文で旅立ったが、また無一文で戻ってきた。それにもかかわらず、彼らは外国で働らいているうちに五千部のモルモン経、三千部の讃美歌集、五万部以上のトラクトやパンフレットを出版し、定期刊行誌ミレニヤルスターを創立した上、シオンへ聖徒が集合するための移民機関を組織し、何万人というイスラエルの家の子孫に「永遠の福音」を知らせるために神の用いたもう道具となつて働らいた。まことに彼らのわざは全く推賞に値する「驚嘆すべきわざ」であつた。

十五、予言者ジョセフ・スミスの解説。

十二使徒評議員会々員の行なつた以上の働らきを解説して予言者ジョセフ・スミスは次のように述べた。

「ウィリヤム・リチャーズおよびウィルフォード・ウッドラフの両長老をのぞき、この時季に当地へ着くと期待されていた十二使徒定員会の会員は全部到着した。これらの会員がその成功を知らせた報告と、大英帝国において主の御わざが栄えていることを知らせた報告を、われわれは喜びの心を以てこれを聞いた。これらの会員

はたしかに神の用いたもう道具となつて多くのことを成しとげたのであるから、各々の義務を果たしたことを知つて心中満足に思つてゐるにちがいない。このように異常に難儀なしかも不順な状況の下において、かくも重要な伝道を企だてた者はおそらく一人もあるまい。これらの会員が約二年前にこの地を出発したとき、彼らの大部分は病氣のためにやつれてゐたか、または途上において病氣になつてゐた。また彼らの家族のうち、数家族はまた(病氣と欠乏のために)なやまされて彼らの助けと支えが必要であつた。しかしながら、彼らは他国の民に福音を宣べ伝えという天の神の召しを受けたことを知つていたので、血肉と相談することなく天の(神の)命に服して財布も旅のふくろも持たずに、このような神聖な職に召したもうた天の神のみこころにすべてを任して五千マイルに及ぶ旅に出かけた。そして、海岸へ旅行するうちに多くの苦しい状態におち込んだ。彼らはひどい病氣からしばし回復すると、またその病が再発するのが度々であつた。そして一文の金もなく一人の友もなしに、見知らぬ人々の間に留まらなくてはならないのが度々であつた。彼らの生命は数度絶望におち入り、これがこの世の見納めと思つて手と手を取り合つたことが(幾度も)あつた。しかしながら、彼らは苦痛となやみに逢つたにもかかわらず、主は常に彼らのために御手をさしのべて彼らを死に手にわたしたまわなかつた。彼らののがれるためにいつも何らかの道がそなえられた。彼らが最も必要とするときに友人が立ち上つて彼らの必要なものを与えて救つた。このようにして、彼らはその旅をつづけてイスラエルの聖者(である神)のいますことを喜ぶことができた。彼らはまことに「貴い種子を携えて泣きながら出て行つた」が、今や(みのり豊かな)束を抱えて

(お詫びと訂正)

十一月号「聖徒の道」の表紙説明のうちで幼児の祝福とあるのは誤りでした。十一月号表紙の絵は幼児の祝福が終えてのち母親に抱かれてゐるところであります。
ここにお詫びして訂正致します。

ここに

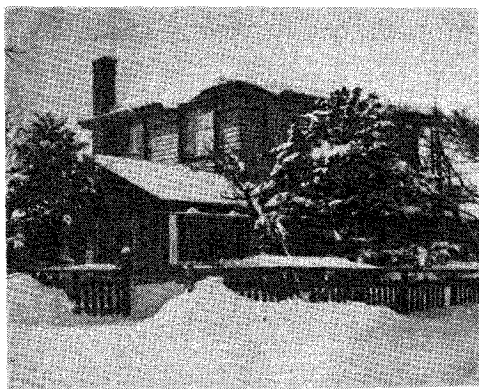
モルモンの 泉あり

札幌支部訪問記

渡 部 正 雄

——— 札幌支部を再興した松下兄弟姉妹 ———

明治時代に開拓された札幌市はモルモンの設計者がソルト・レーク市に習って設計されたと聞いて居りますが誠に札幌市こそ真にソルト・レーク市の姉妹都市ではなかったのでしょうか。そして北海道は将来日本のユタ州となり三年程前の雪祭りに札幌市に見事な白亜のソルト・レーク神殿が建てられました。真の神殿の建てられる日もそう遠い将来ではないのでしょうか、既に広大な土地が購入され近く伝道部一の大きな教会堂の建築が始められるそうで、会員一同腕を鳴らし



札幌支部

て待つて居られるようです。先ずその態勢を御紹介しましょう。

建築委員会

会長(長)松下泰洋 高校教諭

(祭)高杉保夫(電気工事主任) 電気工事

屋さん建築宣教師

(執)柴田修男(増築工事主任) 建築士

(長)倉見光男 警察官(音楽隊員)

(長)藤田秀光 鉄工場勤務、鉄骨関係専門家、クレーン運転手

(長)山本竹司 鉄骨関係技術者、溶接技

術者

(長)北山栄通 郵便局勤務



松下兄弟御一家

八月に伝道部内各支部を巡廻された巡廻宣教師、ワーズ・ワース長老と上野山長老の統計表にはつきりと示されて居り、モルモンの家族数と活潑会員数は、それぞれ十六と十四、何れも伝道部一であり、その他各会出席率、アロン神権者活動状況等に於ても抜群の成績をあげて居ります。

これには全く札幌支部の中興

(長)新江一夫 少年院教官(溶接技術指導員)

(教)中田和彦 事務機メーカー勤務(無線技術をもち機械なら万能選手)

(執)青山篤三 家具屋さん

(長)神野房公 土木科在学中

次に支部の近況を振返って見ましょう。

曾って東中央地方部の指導者会の席上で、

田中第一副地方部長は北海道札幌支部の松下

泰洋支部長の支部運営は伝道部一の成果をあげて居りますので当地方部に於ても、今後、

各支部運営上のモデルケースとして取上げ研究し、その模範に見習い度いと発表しました。

実際に於てその成果は本年

八月に伝道部内各支部を巡廻された巡廻宣教師、ワーズ・ワース長老と上野山長老の統計表に

はつきりと示されて居り、モルモンの家族数と活潑会員数は、

それぞれ十六と十四、何れも伝道部一であり、その他各会出席

率、アロン神権者活動状況等に於ても抜群の成績をあげて居ります。

これには全く札幌支部の中興



モルモンの家族

の英主とも言うべき松下泰洋兄弟御夫妻を中心とする札幌支部全員一同の涙ぐましい活動と努力があるのであります。

松下兄弟は既にこの五月に、九月二十三日に、モルモンの新家庭を建設された鮫島兄弟に支部長のバトンを渡して、再び第一副地方部長の席に戻られ、現在は潟沼第二副地方部

長と共に、柳沢地方部長を援けて北海道地方部の柱として日夜教会の為に御活躍して居られます。

丁度その一年前、去年の五月頃、日々衰微して行く支部の状態を見るに見かねて第一副地方部長の高席に在りながら自ら支部長の職を買って出られ見事今日の隆盛に挽回されたのであります。

今日、松下兄弟は教会の為に週二十五時間以上を費されるのであります。現在月寒の高等学校で英語の教授をされて居りますが学校が自宅から一時間しかかるので七時半の早朝から夜遅く迄御奮闘されて居られますが、この御多忙な夫君を、可愛いモルモン二世の、みはとちゃん(二才)とこの八月に生れたばかりの志るかちゃんの二嬢を抱えながら、よく内助の功を以て、一心同体となって教会発展の為、又模範的なモルモン家庭建設の為に活躍して居られるのがよき伴侶の承子姉妹であります。

伝道部長さんが曾て大会で、若い一モルモンの主婦は、ハワイ神殿に行く為に計画を立てて生活をきりつめ、実に上手に正確に家計を営んで毎月予定額を積立てているが日本人としても、決して豊かな収入でないのに殆ん

ど不可能に近いことを可能にして居る模範的なモルモンの家庭、主婦であると激賞されたのはこの松下姉妹であります。この幼い二児を抱えながら現在地方部扶助協会の会長を務めて居られます。

松下家はこのように模範的な家計を運営して居られるが会員たちを歓待することに於て又有名であります。まだまだお若いお父さんお母さんであるこのお二人が結ばれたエピソードは誠にほほえましいものがあります。

四年前兄弟はY M M I A会長として姉妹はY W M I A会長としてM I Aの発展に協力し

て居られたが活動的なお二人はよくドラマなどにも揃って出演し資金獲得のハワイヤン・ショーにも計画準備一切を担当し、又自ら出演されて十万近い資金をつくられたそうです。

この暖い家庭にひきつけられて多くの兄弟姉妹がよく松下家に集い夜遅く迄楽しく時の経つのを忘れて語り合うそうです。現在、昨年度系図の仕事によって結ばれた本間御一家が松下兄弟自らの設計になる素晴らしい二階建ての一室を借りて新家庭を営み、ほんとに喜び感謝されて居られます。



鮫島札幌支部長

今度の北海道大会に出席させていただいた私とウォルベック兄弟も松下兄弟夫妻の心からなる歓迎にひかされて松下ホテルに一泊させていただきました。快適さは、プリンスホテル以上でその楽しい思い出は私の記念の書に輝く一頁を飾ったのであります。

した。

この信仰強いお二人が同じ職を通じて、主の御業に協力し合う時信仰と愛によって結ばれるのは誠に自然の道であります。これぞ誠に、神の合せ給いし者はこれを離すべからず、であります。でも結婚した時、兄弟は若冠二十一才まだ北大の二年生であつたとは、その昔学校卒業後一週間で結婚したレコードを持つ私も啞然としてしまいました。

早く結婚されただけに、まだお若いのに誠に素晴らしい、モルモンの家庭を営んで居られ、多くの兄弟姉妹がこのよい模範に見習つて次々とモルモンの新家庭が誕生し、現在家庭数は伝道部一であります。その家族名を列挙しますと次の通りであります。

- 一、父 柳沢俊雄 二、父 北山栄通
母 久子 母 春子
子 三人 子 三人
三、父 藤田秀光 四、父 松下泰洋
母 隆子 母 承子
子 二人 子 二人
五、父 西島吉春 六、父 倉見光男
母 美喜子 母 絢子
子 一人 子 一人

- 七、父 児島克巳 八、父 本間 広
母 美沙子 母 圭子
子 一人 子 一人
九、父 松下安雄 十、父 福原俊明
母 弘子 母 生子
子 一人 子 三人
十一、父 鮫島邦彦 十二、父 村上俊郎
妻 邦子 母 亮子
子 二人
十三、父 山本竹司 十四、父 柴田修男
母 匡代 母 律子
子 一人 子 二人
- 以上十四家族、一家族を除いて全部長老で子供の数は二十三人であります。
- 倉見兄弟夫妻は本大会で揃つてお話をされ、その素晴らしい若いモルモン家庭に一同感激したのであります。
- 現在支部会員数は三百名余り日曜の集會出席者は百名を越すと言ひ盛況さ、鮫島、西島児島の三島を以て若き支部長会を結成、倉見名書記を配して札幌号は北洋のオーロラ目指して躍進して居るのであります。
- その目ざましい活動の一つは松下兄弟及び建築宣教師であつた高杉兄弟を先頭に全々會員の手によつて支部の礼拝堂を拡張したこと

であります。その為、教会建築部より受取つた予算の八割で完成したそうであります。七月末より九月始め迄、兄弟姉妹の労働時間はのべ二千時間、四三平方米を拡大したのであります。やれば何事でも出来る。自らの手で何でもなしとける。これが札幌号、乗組員の確信と合言葉らしい。

尚この札幌号にとつて忘れることの出来ない守護神は、伝道部の昔からの宝でもあり支部のよいお母さんであられる七十をこえてまだかくしゃくとして働らいて居られる熊谷たまの姉妹であります。遂最近迄地方部扶助協會長をされて居りましたが最近お仕事の方が御多忙で松下姉妹に譲られたそうですが依然としてよく支部の兄弟姉妹の面倒を見られよきお母さんぶりを發揮して居られます。最近改宗された孫姪さんもなかなか活発に活動して居られます。

又支部のよき相談役として福原、藤田の両評議員が居られます。福原兄弟は私が十四年程前、札幌での大会に出席した時、まだ大学生であつたが今は三人のお父さんとなり教鞭をとつて居られる傍ら近年米国の方も視察して来られ、職場に教会に家庭に十分な賞録を

伝道本部だより

ハプテスマ

一九六四年九月

阿倍野	広島	新潟	東京中央	仲宗根	針嶺	阿倍野
林 数行	岡村悦子	猪又章子	中村謙吾	渡部満喜子	池上耕造	岡林博文(執)
平松良治	麓 敬之	小池 堯	白田敦子	南木僚子	旭川 栄一(教)	伊藤 栄一(教)
綿丸実子	金沢	原 宗二	相原不二枝	市村直子	清水紀行(執)	木下武男(祭)
旭川 誠二	丸谷憲二	西宮	国吉洋子	笠原栄子	伊礼門 実	福岡
高田誠二	福岡文子	戸井淳子	菅原栄子	普天間	江口善生(執)	江口善生(執)
大矢教子	富田勝治	藤岡祐輔	東京東	伊礼門	円 久俊(執)	群馬
石川 栄子	甲府	岡町	石谷 巖	東京西	宮川 淳(長)	宮川 淳(長)
福岡	遠藤幸子	辻 永子	東京西	雨宮保由	引野洋輝(教)	引野洋輝(教)
白井堅一	加藤悦子	相良道子	清水朝子	那覇	佐本敏幸(教)	佐本敏幸(教)
中津留良雄	野田富応	林 富子	清水朝子	那覇		
長浜 修	大村芳子	札幌	清水朝子	那覇		
江崎 則博	松本	長谷部耕一郎	仲里博彦	仲宗根ヨシ子		
山下正子	麻生かず子	弘 布施隆敏	仲里博彦	仲宗根ヨシ子		

神 権

誕生と祝福

金 沢

東京西

福 井

弥 (長)

山本竹司 (長)

亀井シュウイチ (祭)

遠藤文誉 (長)

那 覇

神野房公 (長)

松 本

平野勝也 (長)

嘉 村

正 (長)

新江一夫 (長)

土 屋

念垣郷太郎 (長)

岡 町

東京中央

室 蘭

柴田司 (長)

林 宗

光 (執)

鈴木克弘 (執)

榎本駿二 (教)

富岡康 (長)

溝内俊夫 (教)

藤本豊三 (祭)

菊地アツシ

日向宏 (祭)

桜井光之 (執)

中村洋 (執)

石坂晃一 (祭)

北山嘉明

佐藤正喜 (教)

上野英夫 (執)

田中良一 (教)

小林カツヒコ (祭)

松下山志るか

山本捨治 (執)

吉田光 (執)

小 樽

竹内隆一 (祭)

名古屋

山 形

神成弘昭 (長)

藤本豊三 (長)

堀 田

森谷政美 (執)

池端 勲 (長)

岩城研次郎 (長)

小野敬二 (教)

黄木信 (教)

三ノ宮

小林カツヒコ (長)

坪内憲二 (教)

大沼繁弘 (執)

アサイヒデオ (執)

望月安洋 (長)

山川全也 (執)

高橋成治 (執)

福井治男 (執)

落合勝美 (長)

松本慎一 (長)

横 濱

田口政宏 (執)

竹内隆一 (長)

東京東

青木勝久 (執)

梅原 隆 (教)

大西ススム (教)

田中保利 (執)

橋本幸 (教)

札幌

関 義博 (執)

赤沼忠男 (教)

工藤勝猪 (祭)

中川康博 (執)

柴田俱男 (教)

串田英雄 (教)

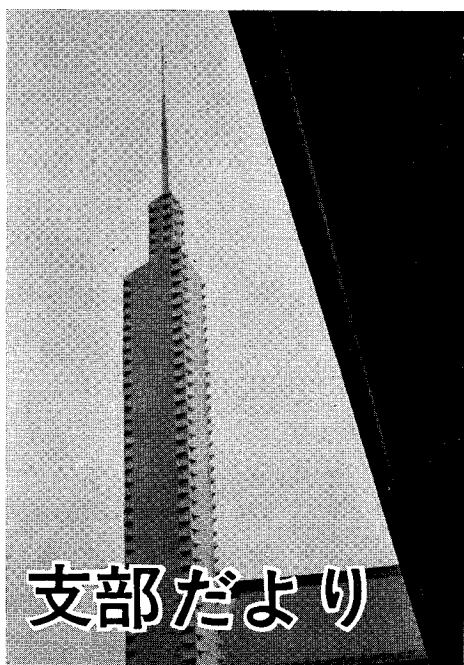
中田和彦 (教)

有沢良康 (執)

山本俊一 (執)

西岡隆義 (執)

旭川支部



支部だより

各支部の兄弟姉妹今日は、再びお便り出来
ます事を心からうれしく思っております。今
年の北海道、特に道北地方は冷害を受けて全
体に沈んでいます。各支部の皆さん、どうか
彼らのためにお祈りして上げて下さい。

先月もお知らせしましたが、今北海道地方
部では伝道セミナーを行っています。第一回
目は九月一日より六週間に亘って毎週火曜日
教会の全プログラムについて勉強しました。

道に必要な知識を多く得られた事と思いま
す。十月九日から地方部宣教師が姉妹たちを
対象にしてセミナーを開始致します。又、神
権者は十一月三日から二回目のセミナーを開
始する予定です。地方部では今度、この伝道
セミナーにとても力を入れ大変重要な存在に
しました。このセミナーが成功するならば将
来このセミナーを卒業した会員の中から御霊
を受けて宣教師に召される人が出るはずで
す。それだけでなくも会員たちはこのセミナー
によって「全ての会員は宣教師」という言葉

初めての計画です
ので会員たちがあ
まり重要視してい
なかったせいか集
まりは良くなかつ
たようです。この
セミナーの大きな
目的は「全ての会
員は宣教師」とい
う大管長の言葉を
実行する事です。
それで六週間通し
て出席した会員は
教会の知識又、伝

を実行するはずで

次は旭川支部では九月二十三日の休日に、
フェローシップスクールを兼ねて神楽岡公園
へピクニックに出かけました。冷害の件を考
えても解るように旭川は連日灰色の重い空で
したが二十三日は予期せぬほどの秋晴れに恵
まれ大いに満足しながら集合しました。支部
長の令息、基（もと）君、一才を頭に自称
「もう年だ」と云う支部長を末尾に二十名以
上の老若男女の出席者は七二段の石段を上っ
たり下ったり、又神社の裏手にある大雪山の
断崖絶壁を思わせるようなところを命の綱で
ある木の根につかまりながら下りる時のスリ
ルを味わったり（おおげさですか？）フォー
クダンス、おにごっこ、他の数々のゲームを
して楽しんだ後で新鮮なリングとブドウを囲
んでのフェローシップینگスクール、そこで
リクリエーションについての講義を受けたり
ディスカッションの時には青少年についての
問題を討論したりして有意義な休日を通すこ
とが出来ました。旭川支部の会員一同は主権
者であるMIA、フェローシップングの役員
に又、恵を与えて下さった神様に感謝してお
ります。では又この次の聖徒の道で旭川の様
子をお知らせします。

那覇支部

各支部の兄弟姉妹の皆さん、お元気ですか。ここ、沖縄では、一年を通して、四季の変化が、ほとんどありません。ですから夏といわず、冬といわず、青々とした木々をながめて暮しております。子どもたちは、春のおとずれを教えてくれる新芽や、秋の素晴らしい真紅のすみじを理解することがむづかしいのです。それでタンポポの花は、一月から十二月まで、どこかに必ずみつけることが出来ると言った具合です。その小さな、かわいい黄色の花を見つけて、春の喜びを味わうこともあります。このような南国沖縄も、十月を中ばも越せば、朝晩は、いくらか冷たくなりました。それでも日中は、相変らず太陽がサンサンと照り輝いております。

その沖縄の中心地、那覇に「崇元寺」という所があり、崇元寺と言えば沖縄では、ほとんどの人が知っている場所です。

昔、そこは安里親大^{やすりおや}という位の高い人の屋敷でした。現在では、その大きな、石門だけが、のこっていて重要文化財の一つとなっています。その有名な石門のすぐ裏側に、那覇支部の教会堂を建築中です。崇元寺とありま

すが、別に、お寺があるわけではなく、その地名をそうよんでいるのです。

建築現場では、ラーソン監督と奥さん、それに普天間と那覇支部から召された。五人の建築宣教師を中心に、工事が進められています。私たち、支部の兄弟姉妹は、実際に現場にいて働き、いかに建築プログラムが素晴らしいかを知り、又、より強く証詞をも、持つことが出来ます。沖縄には、アメリカ人のモルモンの会員がいます。教会堂が完成したら、彼等もこの教会堂を使用するので、すぐくはりきっています。沖縄の会員は、午前中使用し、軍の会員は午後使用するので。毎週土曜日になりますと、彼等は休みです。朝早くから、かけつけ「オハヨウゴザイマス」と力強い握手で仕事が始まります。午後になると、支部の会員が作業服をつけ、頭には麦わら帽子やヘルメットをかぶって、片手にハンマー、シャベルを持って、さっそうと現われます。アメリカ人、沖縄の人のかけ声電気ノコギリの音、ハンマーを打つ音、現場は、ほんとに、にぎやかです。その上姉妹たちが一緒に参加しますので道ゆく人々は目を丸くして注目しています。

朝は五時半から朝食を準備してくれる姉妹

や、自分の仕事を終え、夕食を準備してくれる姉妹、後片づけをしてくれるグループがあります。それに扶助協会として、現場で働く会を持っています。それに軍の姉妹たちは、建築宣教師の服の洗濯、昼食や氷を準備してくれます。ほんとうに、みんなで教会堂を建築しようという気持があふれ出ています。

この建築期間中、私たちモルモンは、より一層、体と心をきたえて、すばらしい証詞を増し加えていくことでしよう。

MIA (文芸部)

東京西支部

東京西支部は東京の副都心といわれる新宿から中央線で約二十分のところ吉祥寺町にある。町は駅南にはその昔江戸時代に江戸の町に水を引く水源地としての役割をはたすために作られた井の頭公園があり、国木田独歩の「武蔵野」を思わせるその面影をわずかにとどめおくところでもある。

都心の喧騒さを離れて建つここ東京西支部は若き独身支部長島田邦男兄弟を中心に主の宮居は守られているのである。

その若き支部長が頼りである西支部はその支部長のハッスルぶりから紹介してみよう。

今まで一時間余りもあるところから七時半のバプテスマに誠に模範的な出席をされていたが、最近教会堂の近くにその居を移された。安息日は自分の時間は食事のときと寝るときだけのようである。会員の相談相手、苦情をひきうけ、あるときは病気の兄弟を見舞うという。

それに音楽委員長の小林守久兄弟の魅力に引きつけられコーラスの練習にも参加して彼の声（本人はどうかしらないが客観的には保証のかぎりではない）を披露するのである。

ウィークデイには毎朝六時頃宣教師のところに行つて勉強会をし麦を食べ出勤に及ぶという模範的な行動をするのである。会社を終えて教会に顔を出さない日はないのではないかと思われる。云うは易く行ないは難しと人はいうけれど、我が若き支部長はモルモンを教えを実践しているのです。「支部長につづけ……」といひたいのである。

それにしてもこのような若き支部長を独身にしておく法はなかりに……支部の姉妹の方々支部長に注目（望むらくは他の支部の姉妹は参観あるべし）してごらんよ。という支部長を中心に日々の生活は行なわれているのです。

十月にバザーを開いて大成功をおさめ、為せばなるの意気込みを会員一同は示しました。そのバザーではショーもハリウッドに出演経験をもつ玄人をまじえての大熱演、そのため盛り沢山の食事の販売がへるというような喜んでいいのか悲しむべきなのかわからない現象も出ましたが……。

しかし西支部の人材は多彩なものでチャールズチャップリンも顔負け（顔はみえないが）のピエロが登場して会場をわかせました。又押し売りをやらせたら（してもらつては困るが）成功まちがいなしと太鼓判の兄弟もいましたのでセリウリ品全部売却の業績を示しました。

会場にはパリ帰りの画家吉田光兄弟の指導のもとに子供たちのかいた絵が参加した人々に目をみはらせるものがありました。

最後にこのバザーを成功させるために二週間後に結婚を控えた扶助協会会長の高木峯子姉妹を中心とした姉妹の協力も見逃すわけにはいかないでしょう。

さて十月はオリンピックに明け暮れた東京でしたが我が西支部はここにもその意気込みを示しています。

支部にあって黙々とその責任をはたしてい

る山川睦子姉妹はオリンピックの聖火ランナーに選ばれその責任を見事発揮したようです。彼女は快活な高校二年生でバレーボールのマネジャーをやっているとか……。

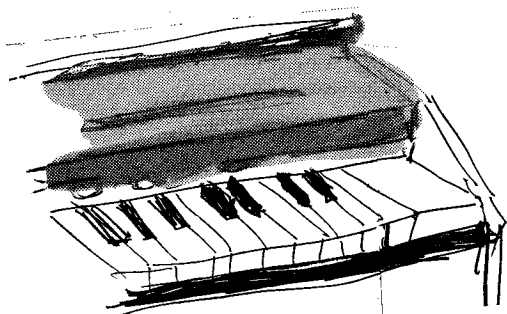
白亜の教会堂が西支部に与えられてからもう一年の月日は流れようとしています。この一年兄弟姉妹は喜びを共にしてすごしてきました。

私たちはこれから日本の各地に建っていく教会堂にさがけて立派な教会堂を与えられているが、まだまだ心しなければならぬ事柄も多い。クリスマスシーズンを迎えるに当って世の商魂とは別にキリストの精神をふみ行うことを心がけたいのである。

二年の月日は

流れて灯った光

—— 建築宣教師を終えて ——



石川善次郎

いつもなら、あわただしい毎日を送っている頃ですが、今日このごろは、心に非常な喜びと余裕を持って、ちょうど長い航海を終えた船が静かに入港する時のように、私はこの召の期間を終ろうとしています。主の業に召されて二年経った今、この身で感じた神様の力は、筆舌では伝え得ないものがあります。二年前、支部長が神権会で、この中で建築宣教師になる人はいいますかと問うた時、自分の右手が直ぐさま上に伸びていました。長い祈りがこの一瞬に結集されたのでした。思えば、六年程前この建築宣教師制度の計画を聞いたのでしたが、是非その宣教師になりたいと心に決め、そして決心はだんだんと成長しました。この仕事に召された初めの頃は、右も左も解らぬ状態でした。無我夢中で半年程過ぎ、その暗中模索の夢からさめた時、私はこのようなことを考えました。自分は、今までにいろいろな仕事を渡り歩いた。それは、とりもなおさず建築宣教師になる準備ではなかったのだろうか。と。正に建築宣教師には、あらゆる能力が要求されます。土建やの仕事から、左官や、ペンキや、鉄筋コンクリートの技術、そして大工仕事の仕上げまで。幸いに私の過去の経験はいろいろな場所で役立ちました。このことに気が付いた私は、素人なりにでも設計図を読みたいと思って、寸時を惜んで、設計図にしがみつきました。そんな時、カトウ

イック監督が寄って来て、読み方を教えて下さったものでした。今私は、大いなる喜びに満たされています。私の生命はいく度か神様の御腕に支えられたことだろうか。ある時、私は、屋根からコンクリーとの床に逆さまに落ちました。その一瞬、私は強い力に支えられたことを感じました。なぜそれを忘れることが出来るだろうか。私の骨と言う骨は、ばらばらになったかと思いましたが、二時間程の休養の後、歩けるようになりました。そしてその夜、灌油の按手を受けた後には、自然の状態になった自分を知りました。東京北支部の建築が終った後、私は、すばらしい数人の兄弟達と共に、群馬支部の建築に携わりました。群馬に来てからの私は、山積された仕事に毎日忙殺されました。だが与えられた重大な責任を、自分を神様に任せて、成して行きました。今私は、神様への深い深い感謝と愛の念に満たされています。この建築宣教師の間、神様は、あらゆる危険から私を守って下さいました。誰か今、この教会堂が人の手によって建てられたと言うなら、それは間違いです。この教会堂は正に神様の御手によって建ち、又建てられつつあるのです。日本の兄弟姉妹が、一日も早くこのすばらしい主の宮を給わるようにお祈りしています。



松島烈偉

神様は建築宣教師として二年間働くように私を召された。この期間を通して、青白くて貧弱な私の身体に健康を祝福して下さいました。

頭が悪い為全く英語の解らない私、恥かしい程に力の無い私が建築宣教師としての任期を終えるとは全くの奇跡である。

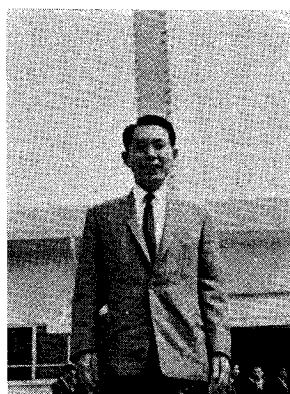
神様の大きな愛と祝福によって働けました事を証詞します。

又、多くの兄弟姉妹達の愛と奉仕に感謝致します。

あまり役にたたず又、食物の事で兄弟姉妹達を煩わせ申し訳なく思っています。

無事に任期が終るので私の為神様に感謝して下さい。

イエス・キリストの御名により アーメン



私の証

斎藤 暁

私は今建築宣教師として、伝道本部で働いています。建物も仕上の段階にきて、ジョンソン監督以下全員張切って働いています。私が建築宣教師になったのは、此建築計画が始まった最初の頃で、十一月二十七日で丸二年の召が終るわけです。過去をふりかえって見て月日の余りにも早かったのに驚いています。私達が此の計画に初めて参加した時は、本当に何も知らない素人でしたが、建築の技術も夫々少し覚える事が出来ました。そして私は西支部、北支部、東支部、横浜支部、伝道本部で働く機会がありました。私は西支部の会員でしたが、元は北支部の会員でした。西支部も北支部も、教堂を持たず、非常に不便な活動をしていました。教堂を建てる事が、全教会員の悲願であつたわけです。然し今現在のように立派に三つの教堂が建ち、亦伝道本部と全国で新に五ヶ所教堂が建てられつつある程、此の計画が発展しているのと思うと全く夢のようです。全く神様の御業に唯、驚くばかりです。宣教師の数も約三十名にふえました。

私は建築宣教師になった事を深く感謝しています。それは神が生

きてましますという強い証を持たた事、身体が強くなった事、教義の理解が進歩した事、メルケゼデク神権を戴いた事、先祖の系図を探索するようになった事、特に私の母が多くの兄弟、姉妹の協力で改宗して、モルモンだけの家庭を作る事が出来た事、新しく始まった神殿計画のハワイ訪問に参加したいという強い希望がわいてきたのです。

これらの事は二年前の私にはすべて不可能の事のように見えました。私たち建築宣教師はすべての事に於て大きな祝福を受け、亦受けつつあります。私はこの計画が正に神の御業であり亦未日が近くこの計画が発展する時必ずこの日本の地に神殿の建つのも近いという事を強く証いたします。亦この計画に参加された多くの兄弟姉妹アメリカのモルモンの方々から感謝致します。最後に私は全国の愛する兄弟姉妹の方々の上に主の大きな祝福ある事を心からお祈りして居ります。これらの証をすべて主イエス・キリストの御名によりて致しました。アーメン

(607頁より)

示して居られます。又藤田兄弟は電気機関車と言おうか、熱と力の人です。このよき顧問に更に温容溢るる柳沢地方部長を父とし、こまごまと面倒を見て下さる松下兄弟を母とする、若き札幌号の船長会は、全伝道部会員の生活の裏付けに北海道に一大牧場、酪農場を建設し、福祉計画を実施したいと夢見て居られるようですがどうかこの夢が実現し、札幌号が宝島北海道の宝を積んで本州に否全世界に向って、五大洋の波を蹴立てて出航される日の一日も早く来たらんことを心から願ってお祈り致す次第であります。

体の記事も見えて居ります。

委員の手引き

支部報告のために

親愛なる系図委員の皆さんお元気でお過しの事と思います。神殿計画も推進しつつあります。今日より一層系図の大切さを知り、励まれておられる事と思います。

支部系図委員は必ず四半期報告書を伝道部系図委員会に提出しなければなりません。もし用紙のない場合は伝道部系図委員会までお知らせ下さい。地方部指導者会においても各々の報告をする必要があると思います。

東京西支部系図委員会

私たち西支部の会員は恵まれた支部教会堂を持っています。このすばらしい白亜の教会堂で主の御業が行なわれていることはなんと喜ばしいことでしょう。

西支部の系図委員会は九月に長老に聖任された柴田司兄弟をはじめ井出晴久兄弟、斎藤優兄弟をそれぞれ第一・第二副会長に書記には西野篤子姉妹という立派なメンバーによって構成されています。

彼等が系図委員の抱負は系図といえは西支部、西支部といえは系図を世の人々が思い出すようにしたいと大きなものです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は系図が、救いに大切な要素であることを信じている。その系図作成の会が支部教会堂落成一周年を前に開かれました。会は近く結婚される念垣郷太郎兄弟の指導よろしく、今まで系図に無関心の兄弟姉妹の心にも喜びを与えたようでした。スライド又お菓子をほおばりながらのなごやかな会はこれから伸びゆくであらう東京西支部の系図委員会の行くすえを祝福しているようであった。

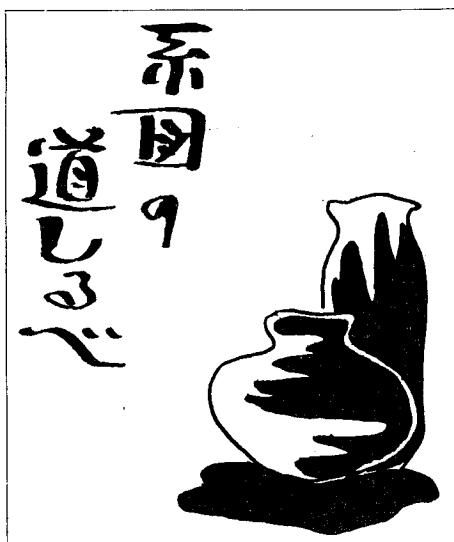
系図に関する資料

古事類苑 姓名之部 解説

版權『神宮司庁』明治三十三年発行されたものを昭和八年復刻発行したもの

我国の最古典である、古事記、日本書紀に始まり、徳川幕府時代まで、あらゆる国書、史書、漢書より姓氏関係の部を抜萃、集成したるもののようです。古事類苑全六十冊の内姓名之部のみ一卷を成しています。

新家の発生、紋章の考証、人名録、小伝記



系図と家族の

記録作成上の注意事項

- 一、神殿の儀式は全部家族の記録（夫妻子供の欄すべてを含む）によって行われるのであって系図によるものではない。系図は家族の記録の順序を見分けチェックする為のものであって系図協会の文庫に保存され、一度提出したらその系図に記載してある範囲内の家族の記録をその後提出する場合に再提出する必要はない。最初に提出した系図以上に系図が遡った場合、その遡った新しい分を更に提出する必要があります。
- 二、系図家族の記録共に英（系図協会提出）日（伝道部控）各一部提出して下さい。英文はタイプか又は活字体はインキで書いて下さい。
- 三、系図の二枚目、三枚目を提出する時に、必ず系図表左上隅の、この系図の一番は系図表○番の○番と同一人であると云う連結を記入して下さい。
- 四、英文の姓（大文字、アンダラインする）を先に名（頭文字だけ大文字）を後にし、ローマ字の後かに上に漢字を記入すること、子供の欄はローマ字と漢字と一人に二行ずつ使用すること、改名しかわからない時は改名を記入し姓か名か一方のみしか不明の時それだけを記す。

- 五、家族の記録の夫、妻の欄の洗礼名（chr.）の処はキリスト教他宗派よりの改宗者の場合の他宗派での洗礼名及び月日記入するものであるから、前にクリスチャンでなかった人には不必要です。
- 六、埋葬日の欄は火葬の場合は火葬の月日を記入します。
- 七、住所は県、郡、市（町村）迄とし番地は不要、東京都のような大都会に於ては区迄記入、西洋式に区、市から先に書く、家族代表者の欄のみ現住所を番地迄記入し、姉妹の場合には、婚家の姓を記入する。この代表者欄以外に於ては既婚の姉妹はすべて実家の姓を使用する実家の姓と婚家の姓とが同じ場合はローマ字の下に二重アンダラインす。
- 八、日附は日、月（系図探求要覧にある略語）年（西歴）を原則とする。日本では明治五年十二月三日（陰歴）を太陽歴の明治六年一月一日としてその後太陽歴を用いた。日附が明治五年以前、陰歴の場合はそのまま日本式に漢字（年号）で記入すると同時に年を西歴にし、月日は、陰歴の儘記入して（L）を附す。
- 九、すべての記録は法的根拠のあるものが優先する。結婚年月日は原則として戸籍謄本（面記載（普通に届出日）の月日を記入するが届出日があまり遅れて子供の出生日と不

- 合理的場合はR（登録）の字を附記する。子供はすべて出生順位に記入すること。
- 十、記録の住所、及び右上隅の神殿儀式資料の欄の夫、妻の姓（会員の場合はバプテスマの欄も）及家族代表者との関係の欄を忘れずに記入すること、家族代表者は原則として会員であるからバプテスマの欄に記入を忘れないこと、直系先祖（子供の欄）の姓の前に×印を忘れないこと。
- 十一、養子は原則として養父母にシリーングされる。既に死亡せる再婚以上の妻は子供と共に最初の夫にシリーングされる。生存中の再婚以上の妻は本人の希望による夫とシリーングされる、例外を望むか、不明な問題はその都度神殿会長に申請又は問合せをして許可又は決定を得る。内縁の妻及び私生児は原則としてシリーングされない。
- 十二、家族の記録が系図協会に受付けられて戻って来て後に内容に変更があったときは変更した部分を訂正して同じ家族の記録を再提出する。
- 十三、日本人に限って自殺者（切腹が多い為）も儀式が受けられます。
- 十四、系図及び家族の記録は不完全であつてもその探求に最善を尽した後には出して下さい。
- 十五、最初は系図一枚と少くとも家族の記録三枚を同時に出して下さい。
- 十六、来年ハワイ神殿訪問者は各人が死者十人以上の代理執行が出来るように遅くとも本年中に出して下さい。

支 部 報 告

_____月 _____支部

	回 数		回 数
Dクラスのレッスン終了章		ホーム・ティーチング	
今月のDクラス出席率		ワーク・ナイト	
委員会開催		個人・ティーチング	
数委員会出席率		スペシャル・ナイト	
催した“系図の集い”		新会員の面接及びティーチング	
	手 掛 け た 数	シ ー ト 成 作 数	シートの有高数 (支部の手持ち)
家 族 の 記 録			
系 図			
個 人 の 記 録			
家 族 の 史 誌			
肖像入りの系図			
其 の 他			
開催した催し物 (目的、効果、反省)			
行った P. R. そ の 効 果			
今 月 の 反 省			
来 月 の 予 定			
備 考			

書記名(又は代理者名) _____

会 長 の サ イ ン _____

私の改宗 モルモンの一入 雨宮保由

私が末日聖徒イエス・キリスト教会に関心を示し始めたのは七月の末日近い頃でした。

それまでの私はキリスト教に限らず、他の一切の宗教をも信じることなく、むしろ攻撃的な考えを持っていて、宗教を信じている人間は自分自身の力に頼れぬ弱い者であり、常に神様や仏様無くしては、生きられぬ人生の敗北者であると思っていました。であるから私自身、何事に於ても全て自分を中心とした考えを持っており己れを犠牲にしてまで他人を助ける必要はないと思っていました。

しかし、実際に私の行動はと言うと私自身の考えとは相反すること、すなわち犠牲的精神を持ってるように思われる事が幾度かありました。つまり考えていることと行うことが一致しなかったわけです。

そんな彼がモルモン教会を知る 前年の末頃、考えと行動とを一致させるべき態度をとったことは、私にとっては一大事件でした。

彼は職業の適応性について五、六年前から考えており、前記の年末に一つの大きな夢を懷き離職、上京する決心をしました。しかし人

手不足の折柄会社側としても、すぐに辞表を受け入れるわけもなく、又私も義理人情にからまれて、最初に辞意を示してから約七ヶ月後にようやく退社することになりました。

その七ヶ月が幸いして、私にとっては人生で最も重要と思われる人を知ることが出来ました。その人を仮にI姉妹としておき、筆を先きに進めることにします。

彼女を見た私の第一印象は「ちょっとびり可愛いいやっ」と言う位でしたが、仕事の上で付合っているうちに次第に「不思議なやつ」「変わったやつ」と思うようになりました。

何故ならば彼女は、昼食時にもお茶の時間も絶対にお茶を飲まず水ばかり飲んでいたので……。又慰安旅行の時にも「酒は飲めるが飲まない」と言う。その頃の私には不思議に思うのも無理からぬことばかりでした。

元来私は物事を考え行うのに（良く言えば）慎重であり（悪く言えば）鈍てありましたが、彼女の「不思議な魅力」には急速に引かれていき、いつしか仕事の上での同僚としてではなく、それ以上のものを感じる様になりました

た。

私が上京する半月位前に、私にとっては不快な思い出となった小事件があり、その事件がきっかけで彼女と親しく語り合うことが出来、彼女がクリスチャンであることを知りました。しかし、お茶や酒を飲まない理由、日曜日に教会以外の所へ外出しない理由等を教えてくれなかったことと、前述のような私の宗教感から、意見の合わないことが多くありました。そこで私はこの意見の食い違いの解消と不思議に思うことの原因を知る為に、上京後キリスト教について調べることにし、東京西支部を紹介してもらいレッスンを受けることになりました。レッスンを受ける課程に於ける私の疑問、反発で感じることは多く、又共鳴すべきことも多くありました。

八月十三日は彼女の誕生日であり、私は誕生祝いを兼ね、彼女の信仰がどの程度のものであるか知る為に、そして又持っている疑問を解く為の話し合いをする為に下阪しました。彼女に会いその信仰心を確かめてみると非常に強いものであり、その当時の私の信仰心（とは言えないものであった）と比べると雲泥の差があり、私は彼女との甘い生活の夢はおろか、同じ道さえ歩むことが出来ないとい

思い、胸の奥底からこみ上げてくるものをおさえ切れず、男として泣くべからざる時に涙してしまいました。

帰京後の一週間と云うものは私の過去にあって最も苦しい経験で最も貴重な経験を積む時期となりました。悩み苦しんでいる時には何も出来ないもの、又外出しても車と衝突しそうになるのが関の山。私は部屋に閉じこもってただ神への不信を紙面に書き続けるばかりでした。

その一部……

「神様、貴方は私共人間を創造された御父であるとのこと。あなたが私共人間の親であるならば、子である私共に、何故もつと情けを掛けて下さらないのですか。あなたを信じていないからですか。あなたの存在を認めないからですか。あなたが創ったと云う人間の世界では、親達はいつかなる時でも、子を思う心に変わりはありません。又子も親を思う気持ちに変わりはありません。

たとえ、不信を抱かれている親であっても出来の悪い子供でも、その間に通ずる愛情は情けは切っても切れないものなのです。あなたには、その愛情がないのですか。情けがないのですか。

我々人間に喜怒哀楽を与えながら、あなたにはそれが無いのですか。ないかもしれせんね。あなたは人間ではないのですから……。

人間社会では、あらゆる人種の人々が、それぞれ完全になろうと努力しています。苦しみ悩みながら努め励んでいるのです。しかし、その多くの人があなたの存在を知らず、又信じないでしょう。まじめに努力し、完全になろうと、もがき苦しんでいる人々でも、あなたは、あなたを信じない人々は蹴落すと云うのですか。悪魔の手に追いやると云うのですか。それはあまりにも酷です。冷酷なことです。血も涙もないとも言えるでしょう。

愚かな人間社会の独裁政治にも似ています。私は私にだけ証してくれとは申しませんが世の多くの人々に真実を知ってもらいたいのです。私が誠心誠意祈っても、あなたはそれをしてくれない。何故です。

………(略)

あなたの教えは、現世に生きています。あなたが、再びこの世に降臨出来るならば、凡ての教会に、あなたの真実の教えを伝えてくれることを信じます。

成程、今世には邪教、インチキ宗教と言われるものが多くあるでしょう。神が一つなら

ば他を崇め礼拝することは誤りでしょう。しかし、仏教にせよ、カトリック教会にせよ、崇め奉つてあるものが間違いであっても、その教えの中には正しいことがあるのではないでしようか。

「神を信じ頼ることも良いでしょう。しかし凡てを神様のすることでは、しかたがないと思う前になげき悲しむ感情の人間であり、同胞である人間に頼れる人間であり、自分の忍耐力、体力、生命力、判断力、精神力に頼れる強い人間であれと言いたい。これは常識です。しかし弱い人間は神と云う存在を信じた時より以上に弱くなり、常に神に頼りたくなるのではないでしようか。」

「教会員である学生さん、あなたたちが学舎を去り一人の社会人として生活する時、今の教えが今までの教えが、何と現実と溶け込みにくいものであろうと思うことでしょう。教会から離れる人も何%否何%とあるでしょう。しかし、あなた達は幸せなのです。人間の生きる上に、忘れてはならないことを学んだからです。互にだまし合い掛け引きをし金銭に追い廻される商売をしていく上にも心の奥底に常に置いておかなくてはならないものを知っているからです。

あなた方は、その教えを現実に合わせて、科学的だと言って忘れさせることは、あなたたち自身にとってマイナスになることです。その理由はあなた方が良く知っているはずです。」

(注 意味の通じないこと、理解出来ないこと、矛盾することなどが多くあると思います。がそれ程に私の頭の中は混乱していたわけです。他人に訴えかけるような書き方をしていますが、これは私自身に問いかけたものか、又はI姉妹、神様等に問いかけたものか、私にもわかりません)

以上のような不信を持ち悩み苦しんでいた私は、ある日散髪屋で読んだ新聞からヒントを得てその悩みから、やっと解放されました。その新聞にはある漫画家の宗教感が書かれており、彼は自分だけの神様(自分の思う通りになる非常に都合の良い神様)を信じていたそうです。又彼の奥さんがクリスチャンだった関係で、教会へ行き牧師さんに「神は本当にいるのか」と聞いた処「それは私にもわかりません」との答えを受けたそうです。

私はこれを読んで成程強い証詞を持っている人達でも「神は存在する」と断言出来る者は、数少く神と会い神の声を聞いた人のみだ

けであって強い証詞を持っても「神が存在すると信ずる」としか言えない人たちが多いのだと思いました。私は早速独自の神を創り上げ、悩みから抜け出すと共に、それからのレッスンを受ける態勢を整えました。神とたてた全ての人間に共通する理想として、人間が創ったものであり、その教えも又人間の考えたものである。これが私の考えた宗教感であり神であります。今考えてみますとこれは全面的に間違ったものであると深く反省しています。しかし、その頃の私にとってはレッスンを続けて行くのに必要な解決方法だったと思っています。

それ以後レッスンを続けることに依り、折ることに依り、自分で考えた独自の宗教感も薄れ消えてしまい、自ら進んで会員となるべく努められています。又今後もモルモンの一員であることを誇りとし、モルモンの一員であることを態度で示すよう努力したいと思えます。

私にとってはI姉妹の存在が非常に大切な役を果たしてくれ、当教会を教えてくれたのが彼女であり、悩み苦しむ貴重な経験が出来たのも彼女の存在があったからであり、又その時期に脱落しなかったのも、彼女がいたか

らと思い心より感謝しています。

私のこの体験記に依って私と同様な悩みを持っている人々、及びこれから悩むであろう人々に、少しでも役に立てたら幸いと思い、筆不精で文学的才能者の私があえてその恥を兄弟姉妹の前にさらしました。生涯勉強を重ねばならぬ私ですが、今後は兄弟姉妹たちの御教示に預ると共に頼りない人間ながら相談相手となるよう努めますので、よろしく御鞭撻の程お願い申し上げます。

最後にこの末日聖徒イエス・キリスト教会は、ジョセフ・スミスに依り回復された真の教会であり、真の組織と、真の神権を有しており、主の下したまえる啓示は我々凡ての人間に与えられたものであり、凡ての人間にとって最も重要なことであり、モルモンの家族はこの啓示を凡ての人間に宣べ伝える義務と権利を持つべきであって、凡ての人間はその啓示を受け入れ、守る義務と権利があると信じ、これを読んで下さる兄弟姉妹にイエス・キリストの御名のもとに証詞し結びとします。

(東京西支部)



或る婦人がいました。

「教会の人たちって皆明るい顔をしていましたけど、生活の苦勞とか悩みのある人なんかは教会には行かないんですね」

これを聞いて私はびっくりしました。皆様は如何ですか。私は今まで沢山の人から、苦しみを持ち又悩みや悲しみを持っているから教会に来る様になったという経験談を聞いています。私自身もそうでした。けれども今、この婦人が初めて教会を訪れて受けた印象は皆が余り明るい顔をして悩みなどなさそうだから私のような苦勞を背負っている者の行ける処ではないということだったのです。「すべて悲しむ者は慰めを受くべき故にさいわいなり」という御言葉の

通り、教会に入った私たちはすでに慰めを受けてその様子が明るくなったのだと思います。兄弟姉妹の集う処から、彼女がいうような雰囲気を感じ出してゐるとしたら、やはり「素晴らしい慰めはここにあり」ということが出来るのではないのでしょうか。

けれどこの羨ましいようなグループの中にあつても、ここに集うことすら苦しいこのように考える人が時々あるのはどうしたことなのでしょう。「その実によりてその樹を知るべし」集う人々の顔を見て、そこに慰めと幸福の泉があることを知ることが出来るのではありませんか。

一つの目的に向つて努力するのを圧うなら目的を果した後の喜びを味うことはできないでしょう。山登りの努力をしない者には頂上を極めた時の喜びを知ることが出来ません。若しも教会内にあつて忙しさや誠命の為に苦しみを感じる人があるならば、熱心な先輩の兄弟姉妹と相談しましょう。彼等は皆頼りになる人達です。お互に愛し合う家族の中では打ち明けて相談した時親身になって助けたら、慰め励ましたりしてくれるものです。同時に愛して下さる天のお父様に訴えてどうしたらよいか尋ねましょう。敬虔な気持ちで謙遜になって祈る時必ず助けて頂けます。小さな助けをも見逃がさずに感謝して受けるならば更に恵の導きが頂けますことを心から証します。決して、一人で、もう出来ない、もう厭だと決めてしまわないで下さい。私たちはお互に心を打ち明けて話合う時お互の愛が一層深くなるのを感じませんか。

その婦人が受けた印象が、中に居る兄弟姉妹たち自身にとつても真実であると実感できるようにもう一度よく見廻し、ふり返つてみて感謝しようではありませんか。馴れてしまつて、忘れてゐる感謝の種が沢山あるようですから。教義と聖約七十八章十九節も見て下さい。

会員として又

宣教師としての

個人的な責任



神学「教義と聖約」

第六十課（「教義と聖約」七十九、八十、

八十一、八十二）

テキスト 教義と聖約

七十九章、八十章、

八十一章及び八十二

章

一九六五年一月第一週

目的

個々の宣教師の責任を示し、もし主の云うところを行なうならば主がそれに就て約束したことを守られることを示す。

宣教師の召し

一八三二年三月中に、三人の長老を伝道に召される啓示が与えられました。（七十九章八十章）或場合に宣教師は東方諸州の伝道に召されたジェレド・カーターのように或特定地域に召されます。けれども又他の者は、もっと全般的な改宗地域を与えられます。ステイーヴン・バーネット兄弟とイーデン・スミス兄弟は周辺の地、如何なる方向にでも出向いて働らくように告げられました。（教義と聖約、八〇・一一三）

教会の中で伝道の召しに比べられるものはわずかしかなかった。この伝道の召しは、世の人々に対し主を代表し、改宗者を増してシオンを建設し、福音の基礎を、よりよく理解し同時に、家庭に於ける奉仕の生涯の基礎を準備します。

伝道の召しを尊重する宣教師は彼が自分の役割を果たすなら、主が彼の働らきを支持して下さることを発見するであります。人がその召しの精神を体得するならば聖霊の力が

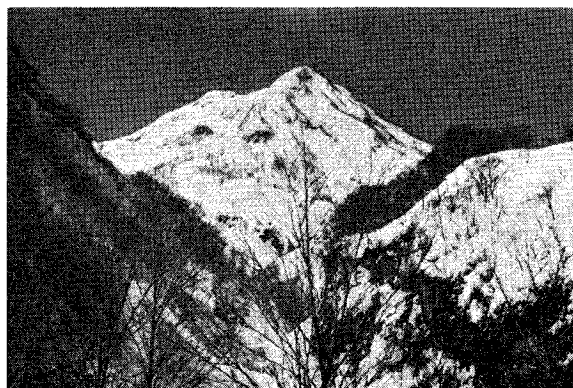
彼を支持するでありましょう。

ジョン・テラー大管長は次の文を以て宣教師の召しに対する私たちの注意を喚起しました。

。私たちが如何なる職に召されても、神を尊びその召しを發揚せねばなりません。この神権は單にその人の榮与と昇榮の爲にのみあるのではなく、彼が他人に奉仕する道具となる爲に与えられたものであります。長老に就て言うならば、彼は何故、救いの伝達者であるのでしょうか、彼は空の使者であり、大いなるエホバから地上の民にメッセージを宣べ伝えるように委任されたのであります。そして神は彼を支持する約束をされたのであります。神は常に彼に忠実な長老たちを支持して居り又支持しようとして居ります。（説教集二四・三五）

宣教師を支持する力

ジェレド・カーター長老は東方諸州に伝道していた時に彼の兄弟のシメオンと一緒にいました。この二人の宣教師は、暫くの間レーク湖畔のニューヨーク州ボルトンで働きました。そこで集会を開いている時に彼らは裕福な暮らしをしているジョン・タナーに逢いました。彼は足を病んで医者から癒らな



いと言われて自分で乗り歩く椅子車を發明して居りました。彼は決して再び歩くことが出来ないと言ひ渡されて居りました。タナー氏は、モルモンの宣教師が天使の導きや、モルモン經を信じているので、やりこめてやろうという思いにかられて集会に出席しました。けれども彼らの説教に感じた彼は、もっとその教えを聞きたいと思つて彼らを自分の家に

招きました。タナー氏はこの教えに改宗したことを告白しましたが自分の体が不具の爲、バプテスマを受けられないと言ひました。そこで次のような會話が交わされたのであります。

ジェレド・カーターは彼に言ひました。

。貴方は主の力によつて貴方の足が癒ると信じますか。タナー氏は、はい、と答えました。そこでカーター長老は彼の手を不具者の肩に置いて大声で言ひました。

。ジョン・タナー、イエス・キリストの御名により私は貴方に立つて歩けと命じます。

不具者は椅子から立上がりました。けれども跛の足を床につけることをためらつていました。長老は言ひました。

。主の御名により貴方の他の足を床に下ろしなさい、恐れてはならない。

タナー氏は足を下ろしました。そして癒されたのであります。彼は何らの困難もなく會つて歩いていた時と同様に歩きました。彼は大大たで歩いて部屋に入りこの奇蹟に對し神を讚美しました。（兒童教育、七十五卷二九一頁）

三人は湖に歩いて行きタナー氏はバプテスマを受けました。二年後に彼はニューヨーク

に於ける所有地を売ってオハイオ州カートリ
ンドに移り聖徒たちの仲間に加わりました。
遂にタナー兄弟はその所有する富の大部分を
費してシオンを建てたのでありました。

伝道の成功した例でよく知られている一つ
は、一八四〇年、ウィルフォード・ウッドラ
フ長老により英国伝道部に於て、なされた記
録であります。彼はその誕生日にスタッフ
ードシャイヤで働いていた時に聖霊によって
南方に行くように指示されました。この靈感
に従ってウッドラフ長老は、ヘヤフォードシ
ヤイヤに旅し、そこで裕福な農夫ジョン・
ベンボーに逢いました。彼は、結ばれた兄弟
たちの一団、六百人以上の人が教えを聞く
かも知れないと告げました。ウッドラフ長老
はベンボー氏の物的な援助を得てこの人々に
説教しました。それからかずかの間に一人
を除いてすべての者がイエス・キリストの真
の教会を受入れたのであります。更に彼の
伝道に於て聖霊の力を授けた例は興味ある方
法によってもたらされました。牧師の要求に
よって、地方の巡査が福音を説いているウッ
ドラフ兄弟を捕えようとして集会に來まし
た。おとなしいその巡査は宣教師の要求によ
って待つて居りましたが集会の終りに彼はそ

こで説かれた
真理を信じバ
プテスマを受
けたいと申し
出ました。英
国教会の二人
の書記も又同
様にして集会
に遭わされま
したが、二人
ともバプテス
マを受けてし
まいました。

(ジョセフ・

フィールディング・スミス教会歴史粹二
八二―二八三頁) 八ヶ月間に主としてウッ
ドラフ長老の努力により、ヘヤフォード・シヤ
イヤ、ウオルセスター・シヤイヤ及びグロウセ
スター・シヤイヤに於て一千八百人の人が教
会に入つて來ました。

宣教師として奉仕する為の準備

八十章は宣教師として奉仕する為の準備に
就ての心構えを私たちに示して居ります。こ
の啓示によつて召された二人の宣教師たちは
。汝らの今までに聞き、誠に信じ且つ真実な



りと知るところを宣べよ、(四節)と告げら
れました。成功する宣教師は聞く人に福音の
根本を与えるに十分な知識を持つて居りま
す。注意深く召しに備えることと奉仕の働
きは成功の鍵であります。必要な準備は聖
霊の靈感を受けるに価する生活をすること
であります。若しも人が福音を学んだら適当
時に必要な知識を主がもたらしてくれるで
しょう。何にも増して宣教師は回復された福音
に就ての証を持たねばなりません。そして始
めてイエスが救い主であることを宣べるこ

が出来ます。ジョン・エイ・ウィットオは言っています。これらが真理への道中の段階であります。望み、祈り、学び、実施する。これらは真理に対して支払われる永遠の価格であります。これらの道は各自が自ら見出さねばなりません。他の人が私たちの為に私たちに代って、望み、祈り、学び、実施することは出来ません。真理は各自が自身で克ち取らねばならないものであります。(証拠と和解 三・八四―八五)

人が福音の真理を知っている時、信仰を混乱させ又は破壊するようなことを教えないでしよう。彼は真理を学ぶことを求め彼の隣人の救いを進めるであらう真理だけを教えるであります。

伝道の仕事、その他教会の教師の役職又はその他勧告を必要とする召しを成功させる導きとして教会の標準聖典に言葉が与えられて居り又生きた予言者の指示が与えられて居ります。(教義と聖約一〇・六二―六三)

大管長会の組織

一八三二年三月中にジョセフ・スミスは大管長会の組織に就て啓示された八十一章を受けました。この啓示によって、フレデリック・ウィリヤムスが予言者スミスの補佐

として召されました。一年後の一八三三年三月一八日にシドニー・リグドンも又補佐としてここに大管長会が組織されました。それ迄の間も、この兄弟たちは、予言者を補佐したのであります。教会の組織がだんだんと伸びて行った理由をアンソン・エンチ・ランド副管長は次のように述べて居ります。

一八三〇年四月六日教会が組織された時、私たちの学んでいる限りに於て教会にはたった九人しか居ませんでした。勿論九人を以て完全な神権組織を設立することは不可能であります。ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは召されて使徒に聖任されました。けれどもその時教会はあまり小さかったのでも十二使徒会又は七十人会は存在し得なかったのであります。御業が成長するには時間が必要としたのであります。けれども主はその目的に就て啓示を与えられ、適当な時期が来た時に予言者ジョセフ・スミスを大管長としシドニー・リグドン及びフレデリック・ジーウィリヤムスをその補佐として大管長会を組織したのであります。その後十二使徒が選ばれ又七十人が選ばれたのであります。けれども最初このようにいろいろ異った定員会を組織することが出来なかった時、長老たち

がメルケゼデク神権を持っていたので長老たちが管理していたのであります。けれども主は彼の教会の為に完全な組織を持って居られ彼らが、それを受け入れる準備が出来た時に与えられたのであります(大会報告一九〇一年十一月七頁)

王国の鍵

教会の大管長会に関する大切な真理が八十一章二節に与えられて居ります。ウィリヤムス兄弟は大管長のジョセフ・スミスが神の王国の諸々の鍵を持ち、これらの力はメルケゼデク神権の会長会(大管長会)に属するものであると告げられました。一八三〇年八月に主は、その前年の六月に、ペテロ、ヤコブ及びヨハネがこれらの鍵と末日の神権時代を手渡したことを参照しました。(教義と聖約二七・一二―一三)

要するにこれらの回復された鍵はその後授けられた諸鍵と共に地上に於けるすべての神権の機能を運営するのに必要な権利と特権と力を与えたのであります。八十一章でウィリヤムス兄弟は予言者の補佐をするように通知したのであります。補佐たちは教会の為に啓示を受けませんでした。彼らの前にもたらされるすべてのことに就て大管長と一致し

て行動出来るように靈感される資格があつたのであります。指導者としての十分な祝福を受けるに祈りが必要であることが啓示の中に強調されて居ります。(三節) 弱い者や貧しい者を援けることをも含む大管長会の義務に加えて(五節) ウィリヤムス兄弟は福音をも宣べ伝えるように告げられました。そうして始めて彼は隣人の為に又神の栄光の為に最善を尽すことが出来るのであります。(四節) ウィリヤムス兄弟のその召しに応える忠実な働らきは、すべての末日聖徒にとつても同様ですが御父の部屋で永遠の生命の王冠を与えられるであります。(六節)

王国の中で持っている如何なる職にもかかわらず、すべての教会の会員は伝道をする必要があるのであります。

八十二章の背景

八十二章を受ける一ヶ月前に、予言者ジョセフ・スミスは彼らの物質的な利益の為に信徒たちをシオンに組織するように勧告されたのであります。(教義と聖約七八・三―四) ミズーリ州のインデペンデンスに到着して間もなく、教会の総評議会が開かれ、その時、予言者は大祭司の会長に支持され一八三二年の一月二十五日にその職に聖任されました。

評議会の合間にエドワード・パトリック監督と、シドニー・リグドンとの間の意見の相違が解決されました。そして八十二章に記録されている啓示が与えられたのであります。主はこの兄弟たちの意見の相違の解決を認められ、彼らがお互に赦し合つたので彼も彼らを赦すでしようと言われました(同上八二・一)

責任の程度

すべての人はこの地上で彼がその責任を負う律法によつて審かれるのでありますから、彼らが肉体でなした行為によつて彼らの責任も相違するであります。

。およそ、多く与えられる者は多く求められ、また一層大いなる光に抗らいて罪を犯す者は、一層大いなる罪の宣告を受くべければなり。(教義と聖約八二・三)

一層大いなる光と理解は一層大きな責任をもたらす原則はすべての人に正しい原則として訴えられるべきであります。例えば人が福音の満ち足れるを聞く機会がなかったらその律法に支配されません。又若し人が律法の誠命を知る機会があつて、且それを実行していなかったら、彼はその律法に生きて得られる祝福を失うのであります。人は律法の成文

を学んでも、その誠命を適用する必要を理解出来ないことと主張することが出来るでしょう。彼らはどうですか？ ジェームス・イー・タルマッジ長老はこれに対し有益な回答を与えて居られます。……人はこの人生で何を要求されているか理解出来なかつた為に来世に於て罰せられるであらうかとたずねる人が居ます。彼らの有罪の程度は彼らが靈的なことをおろそかにした根本原因によつて決定されます。偏見又は知ろうとする希望の不足が理解に失敗する結果となつたのかも知れません。

貴方はバプテスマが救いに本質的なものであることを覚えることが出来ませんか？ 恐らくその原因は貴方が主イエス・キリストに対する信仰を少しも伸ばさなかつた結果であるか或は又貴方が貴方自身の罪を決して悔改めなかつたからであります。信仰と悔改めは聖文に確言してありますように効果的なバプテスマの前に要求される必要条件であります。そして信仰なく悔改めない者にバプテスマの本質を理解することを期待することは、何ら数学の基礎知識を学ばない者に代数を理解することを期待すると同様に無理なことであります。

福音の要求する処を意識的に無視すること

は罪であります。人は真理から離れるか或は光明の道が彼の前途に開かれているにもかかわらず故意に暗黒の道を選ぶのは、彼の神性な血統及び理性の相統権に不忠実であります。真理を積極的に拒むことは消極的に無関心であり又は無視することよりも罪が大きいのであります。けれども尚すべての人には自由を選択する権利と自由意志の力が与えられているのであります。これには当然の又さけることの出来ない結果が伴うのであります。

(モルモン教の本質一九四八年版二七〇—二七一頁)

末日聖徒はバプテスマによって又神殿の儀式によって或は又聖霊の導きによって誓約をしていますので主の前に、より一層大きな責任を有しているのであります。私が一人に對して言っていることはすべての人に對して言っているものである、ということはこの啓示に何度も適用されている真理であります。真理が一人又は数人の人に對して語られたとしても通常それは多くの人に適用されるのであります。

敵がその領分を拵げて暗黒が支配するのは一八三二年に於けると同様に今日に於ても真実であります。(教義と聖約八二・五)この

状態は世の中に次のような警告をもたらします。

而して、神の怒りはこの世に住める人々に向いて燃ゆ。而も善を行う者一人もなし、皆正しき道より外れたればなり。(六節)

再び罪を犯すことなかれ

主はミズーリの兄弟たちに(又教会のすべての会員たちに)再び罪を犯さないように勧告し、罪を犯す者には前の罪愆に返るべし、と言われたのであります。(教義と聖約八二・七)エゼキエル十八章二十四節を引用した後教義と聖約註解に次のような説明を与えて居ります。

……神は悔改めた罪人を、主なるわれ、今汝らに罪を負わせざるべし、と言われる迄完全に赦されますが、一方正しい道からそれた義人は以前の行いによって救われることは出来ません。原則は両方に向って働きますので誠に正しいのであります(四九〇頁)

物質面の滅命

シオンと同様のカートランドに於けるエノクの制度の下に貧者たちのことを処理する為にミズーリに遣わされる兄弟たちへの命令の前文に主は屢々引用された次の真理を述べられました。

汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに對して責任あり。されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。(教義と聖約八二・一〇)

この文の意味はよく知られて居ります。主

はこの宇宙を、彼の教会を又救いの計画を、律法によって運営して居ります。律法が守られる時、その律法の祝福が伴うのであります。全財産献納法の運営に當って、すべての人が彼の管理権を行使することによって単に彼の家族が利益となるばかりでなく主の倉庫がすべての必要な人にほどこされる程、満たされるのであります。すなわち、すべての人その隣人の利益を図り、誠心誠意神の栄光を顯すためにすべてのことを為すなり。(十九節)

この管理人の職の律法に生活する特権を持った兄弟たちが若し彼らの誓約を破つたら、彼らは、この誓約に對して罪を犯し心を頑固にする人は、わが教会の律法に従つて処理し贖いの日に至る迄サタンに付して打ち叩くに任せられるのであります。(二十一節)

兄弟たちは又次のように忠告されました。汝ら不義の財を以て己が友を得よ。これは智慧あることなり。然らば、彼らは汝らを滅すことなからん。審判はただわれひとりに任せ

よ。それは審くことはわがことにしてわれ応報を与えん。(二十二節、二十三節)

聖徒たちは会員でない彼らの友人たちに親切にし、共に仲よく平和に暮らしたのでありますが決してその胸に不義の原則を懷くようなことはなかったのであります。福音は人が罪から遠ざかるように教え、それを完遂する道は、誘惑のある場所に入らないようにすることであります。寛容は幸福への主の道に反する原則を受入れることではありません。人は末日聖徒の標準と行動を受入れない人と仲よくすることは出来ません。けれども寛容はおぼれることではありません。

要約

教義と聖約の四つの章が本教課を形成して居ります。私たちは主が与えられた今日でも適用される伝道上の指示を学びました。即ち忠実な宣教師は、働らく時に聖霊の導きを受けることを約束され、又神権の力は勤勉な者に授けられることであります。教会の職、如何にかかわらず誰も伝道の責任から免除される者は居りません。最後に私たちは、暗黒の力はこの地上に存在し、勤勉に誠命を守ることの必要なことを学びました。人に対し寛容であることは、命ぜられる迄もないことであ

ります。けれども寛容は末日聖徒が神となした誓約と両立しない思想及び実習を受け入れることではありません。

考察の為の質問

一、伝道の奉仕を通じて、もたらされる利益は何ですか？

二、七十九章三節の成就された模範として、一八四〇年の英国に於ける伝道の働らきの進歩に就て述べなさい。

地区監督のメッセージ

本伝道部の現地人会員の間に教会建築計画活動を発展させることは私たちにとって大きな問題であります。彼らの大部分が十分又は二十代の始めの方で学生が多く、いくらか年をとった人は就職して働らき始めたばかりであります。私たちが会員たちに対し彼ら自身の建物である教会堂建築計画にひきつけるようにする事が必要であります。勿論彼らの多くの時間を要求するものではありませんが、実際に私たちがもっと積極的に活動に参加するようにと言う時は特に各支部の指導者に味にかけているのであります。

先づ第一に彼らは点火栓のようなもので自ら進んで働いてその模範を示す者でありま

三、主が啓示されたことを教える宣教師(及び教会内の教師)の義務は何ですか？

四、王国の鍵とは何でしょうか、誰がそれを用いるのでしょうか？ 又それを用いることによって誰が利益を受けるのでしょうか？

五、多く与えらるる者は多く求められ、という聖文は如何なることを意味しているのでしょうか？ 説明しなさい。

二番目に彼らは会員たちか彼らの指示の下で彼らと共に働らくように励ますことあります。三番目に彼らは常に愛と熱意を以てこの計画を語るべきであります。四番目に若い会員たちに勤労宣教師になるようにすすめ召された時は彼らを尊敬し計画に就てよく話しをし彼らの働らきを称讃するようにします。五番目に計画の中で彼らの責任は何であるかをよく検討して出来るだけ会員の才能を有効に動員して委員会を組織することです。

指導者の大切な召しに神の祝福がありますように、そして貴方が常に主の教会及び王国の建設に忙しく従事出来まうように。

心からなる貴方の兄弟

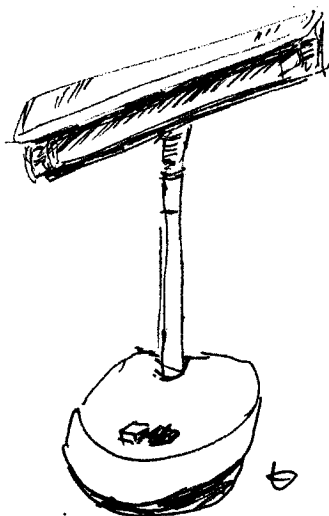
レックス・エイ・チニ

すべて生ける神の教会のためにして

すべての人その財産を利用増加せしめ

以って財産を殖して

教義と聖約 82:18



訪問教師のメッセージ

教義と聖約に基づいて実践する真理

メッセージ六十

一九六五年一月第一週

目的 私たちが祝福されている才能を伸ばせば私たちの能力は増大することを説明する。

人生に於ける一つの不幸なことは私たちが、すべての者が自分に与えられている才能を低く見積っているということです。私たちの大部分の者が自分の能力の一部しか自覚せず、又一部しか進歩させていないのであります。そのわけは、私たちが祝福されている才能を用い、又は進歩させることに失敗しているからであります。私たちの才能を用いることは、単にそれを進歩させるだけでなく更に附加された才能の基礎を置くことにもなるのであります。人生の大いなる真理の一つは私たちが私たちの才能を用い進歩させ発揚するならば、更に大きな業績を挙げる能力を得るということです。この考えは、真理としてラルフ・ワルド・エマーソンの言葉から屢々引用して来しました。即ち、私たちが何ごとでも努力している時、だんだんと容易になって来ます。それはそのことの性質が変わったからでなく私たちのそれを為し遂げる能力が増大したからであります。言い換えれば、練習が完成させる、という声明が真実であることに疑いはありません。

私たちが私たちの一つの才能を進歩させる
と、更に他の才能が追加されると言う教義と
聖約からのメッセージは実際に或人の経験に
示されているのであります。この人は美しい
祝福師の祝福を受けて居ります。この祝福は
彼女がまだよく伸ばしていない才能を持って
いると述べてありました。

時が経つにつれて祝福の中のこの言葉だけ
が彼女の頭に残り、彼女はその才能を延ばす
ことに失敗するのではなからうかと恐れたの
でありました。実際に、彼女は非常に僅かな
才能にしか恵まれていないことを自覚したの
でありました。

けれども教会の特長であるいろいろな役職
に奉仕する機会が彼女にも訪れました。そし
て彼女は新しく与えられた職を全力を尽して
遂行している時に次に与えられる任務が容易
であることを見出したのであります。彼女は
気がつかない内に、自己表現、指導性、組織
力、その他彼女が持っていると思われなかつ
た才能を伸ばしていることを発見したのであ
りました。

これが私たちすべてに開かれている挑戦と
いうものであります。私たちは自覚していな
いかも知れないが私たちは皆、多くの才能に

祝福されているのであります。私たちに奉仕
の機会が訪れた時には、進んで熱意を以てそ
れをとらえて才能の限りを尽して遂行すべき
であります。

若しも私たちがそのようにするのなら私たち
は更に附加えられた才能を伸ばし、教義と聖
約に約束されているように才能が、百倍す
るのを見出すであります。

私たちすべての者が音楽又は芸術というよ
うなより魅力的な方面に大きな才能を持って
いるのではないということは事実でありま
す。けれども私たちすべての者は実習するこ
とによって、よく自己を表現し、よき聞き手
となり、より理解ある人となり、よき妻とな
り、母となり、隣人となり、そしてよりよき
主婦となる才能を伸ばすことが出来るのであ
ります。私たちがもし誠実に努めるなら私た
ち自身及び他人の内に長所を見出し、人生の
共通した美しさを発見する感覚を伸ばすこと
が出来るのであります。より快活な態度を通
じて私たちは周囲の者により多くの光と活氣
を拡張することが出来るのであります。主は
言われました。おおよそ、持っている人は与
えられて、いよいよ豊かになるが、持ってい
ない人は、持っているものまでも取り上げら

れるであろう。(マタイ伝一三・一二)

ジョン・グリーン・リーフ・ホイテヤの書
いたマウド・ムーラーという詩から次の句が
よく引用されます。口で語られ又は字で書か
れたすべての悲しい言葉の内で最大なもの
は、「……すればよかったが」という言葉
であります。

私たちが私たちの才能を展ばすことの大切
さに思いを致す時、私たちの生涯が永遠の世
界に入る時、この人生での経験を通じて身に
つけ進歩させた、才能や能力や特性だけが持
って行けるものであることを覚えておこうで
はありませんか。

確かに私たち一人一人が神から与えられた
才能を現わし、伸ばし拡大させる義務がある
のであります。

家族の幸福の上に

その家庭の状態が極めて大切である

仕事会（一九六五年一月第二週）
考察その四、家庭は幸福な天国である



東京西支部（越湖兄弟姉妹）

見よ、わが家は秩序の家にして混乱の家に
あらずと主なる神言う。（教義と聖約一三
二・八）

ここに末日聖徒の家庭のための模範があり
ます。何となれば幸福は秩序のある処、かん
じなことがなされている処にあるからであ
ります。

一家の主婦が家の中をきちんとする計画で
まづ最も大切なことは、決してほうり放しに
しておかないという習慣を身につけることで
あります。時間に余裕のある上手な主婦と話
して見るとたいいてい、一日の始めか終りに整
理整頓に時間を使って居ります。

一家の主婦又はその家族の者がだらしない
ぐらい、がっかりさせられるものはありませ
ん。混乱した状態は、見ただけで疲れてしま
います。そしてせっかく計画したことも失敗
してしまうのです。そしてその混乱な状態が
続く限り何もする気がなくなってしまうので

あります。

整理するということはだらしなことが習
慣になってしまっている人にとっては難しい
ことであるかも知れません。けれどもそれは
時間をかけ努力して学ぶだけの価値はありま
す。或人たちにとって、これに力を注ぎ集中
するには数週間を要するかも知れません。け
れどもその効果は絶大であります。もしも子
供たちが玩具を片付け衣服を掛けるなら母親
の仕事は楽になります。

朝先ず第一に貴方が働けるように身を整え
てから、家族の者たちが出て行った後、三十
分間、取片附けに費しなさい。目ざまし時計
をかけて、その時間内で終えるようにしなさい。
炊事場から始めて皿を流しの傍に積んで
置きなさい（今は片附けることだけです）
椅子やテーブルをきちんととして、食物を片附
け、ラジオの下にしまひこんでいた勘定書な
どを整理します。流しの上の窓のしきいのご

みをきれいにします。まだ皿は洗わず床はふいてなくとも一応きちんとなったかどうか見なさい。

それから勝手間に移ります。玩具や上穿きや(洋間の場合)皿や書物や鉛筆その他、とりちらかっているものを片附けます。必ず置くべき場所に置くようにしなさい。別の部屋に移したり、又他の場所に積み重ねて置いたりして、後で探すようなことのないようにしなさい。二階に置くべきものはまとめて二階に置いてそれらが必要とする時、一度二階に上ったらすむようにしなさい。古新聞を処分しなさい。

それから、浴室、寝室、その他の部屋を片附けます。そこで恐らく目ざまし時計が鳴るでしょう。そして貴方は、まだ十五分、三十分、或は一時間、続けねばならないでしょう。でもそれは問題ではありません。その整理が完成する迄続けなさい。

片附けが終わったら、戻って皿を洗い、床に真空掃除機をかけるか、その他のもので拭きなさい。さてそこで仕事はどんどん進みます。

その他の取片附けに、大切な時間は父親が戻って来る前、夕食前の一時間かそこらであ

ります。家の中か庭に散らばっているものを必ず置くべき場所に取片附けるように習慣づけなさい。

一たび家の中が整理されたら、どれだけ家事がはかどるかびつくりされるでしょう。すべての物が定められた場所に置いてある時、探し物、をする時間が節約されます。そして家族の一人一人に独立心を与えます。何となれば、いちいち何が何処にあるかお母さんにたずねなくてもよいからであります。そしてお母さんを楽にさせることが出来ます。お母さんにとって家の中が乱雑であることぐらい困ることはないのですから、この家の整理はひいては他の事項の整理、整頓も刺戟するのであります。

このような背景の下に子供たちに、その責任を分担するように教えることは誠に容易なことです。特定の割当ては家族会議の時にすべきであります。各家族員が自分に何が期待されているか、又如何にそれをなすべきかを、はっきり知るべきであります。そこで彼はその仕事を前述の規準に従って完成する責任を持つのであります。このようにして伝達の為、結婚の為又生涯の為によく準備がなされるのであります。

デビッド・O・マッケイ、大管長は、私は家庭以上によい処を知らない、そこには人生に於ける真の幸福が見出される、と書いて居ります。

救い主は、わが家は秩序の家なり、と言われてその鍵を与えて居られるのであります。



聖書の中にあらわれている

文学の形式——散文

扶助教会レッスン・文学

一九六五年 一月
第三回目の集りに

目的—聖書の文学的研究にと
う困難をみとめ、また聖書
中にある文学の形式について
考えること。

クラスの指導者と会員たちは、
このレッスンでは聖書は単に文学
としてだけ考えられている、とい
うことをいつも心に留めているこ
とがたいへん大切であります。こ
のようにするならば、宗教につい

て研究をするときにいつも考える
神学上のことについて、くり返し
質問をするという当然の困難をさ
けることができます。文学として
聖書を研究するときには、自然に
その霊的の価値を一層容易に理解
し鑑賞するようになるにちがいあ
りませんが、それは今このレッス
ンに関係のないことであります。
聖書は文学の面だけから見てもほ

かにならぶもののない書物であり
ます。「旧約聖書が本来もってい
るうちには、世界の大文学でも、
これと匹敵するものをもっていな
い。その上に旧約聖書は、ギリシ
ヤやローマの文学と共に、近代の
散文や詩を発達させたおもな要素
になっている。……古典文学と聖
書文学とを相ならんで教えないな
らば、どのような高等教育も完全

ではないであろう」。

聖書を神学の面だけから考える
ことになっている人は二つのおも
な困難に出会います。その第一は
聖書を文学と考えることが、神を
敬まわないことであり、「靈感説」
(聖書は敬けんな人々が神の靈感
を受けて書いたという説)と一致
しないと思えるかも知れぬとい
うことであります。しかし、このよ
うな心がまえは変えなくてはなり
ません。その第二は、聖書にあら
われている形式についての困難で
あって、たとえば聖書の中の詩の
形式はふつうの詩と結びついてい
る形式とはちがうということであ
ります。

しかしながら、文学の中には正
確な形式やことば使いのみりよく
以上の何かがふくまれています。
文学は多種多様の形式たとえば叙
情詩、劇、評論、物語などからで
きています。このような形式を区
別するということは言葉の真意を
完全に知るためばかりでなく、文

学的作品を解釈するためにもなくてはならぬことであります。もしも

ある人が評論を読んでいう印象を受けながら劇を読んだら（どうなるでしょうか）、その人は自分の読んでいる劇が何を表わそうとしているか、その意味をとらえることができないでしょう。これは正に聖書についても起っていることであります。

わたくしたちは、聖典のできた昔にさかのぼってみると、その当時はまだ原稿を書く技術が高度に発達していなかったことに気づきます。その当時の原稿は「語と文との区別もほとんどつかず、まして散文と詩の区別、一つの詩の中にある格調をとのえるための語（歩格という）の間の区別、対話の中にあることばとことばの区別、簡単な散文の中の最も単純な一つ一つの部分の区別さえつかない」しろものであります。手短かに言うと、聖書をつくっている材料は、すべての文学上の形式が

同じように見える原稿で保存されたのであります。

「近代聖書の中にある形式は、原稿が形式の区別を示し始める時に、聖典を書くことを引き受けた人々によって与えられていると思われる。これらの筆者はたまたま、文学上の形式のことなど一切かまわずに、聖書を解説のための書として考えていた人たちであった。このような解説が聖典に与える形式は、当然解説書がそなえているところの形式であつたろう。それであるから、かざられた形式の原文で聖書がわれわれの贋訳者に伝えられたのであった。散文と詩の間にあるような最も初歩の形式の区別さえ、ヘブライの聖典（旧約聖書）に関しては欽定訳聖書が完成して一世紀以上たってから始めて発見されたのであった。今日ふつうの聖書にある形式としての単位は「文」でありますが、一方文学の中にある単位は「劇」、

「短い物語」、「評論」、または「叙

情詩」などであります。

「聖書に見られる文学上の形式」前に述べたように、聖書の中には事実、ほとんどあらゆる文学上の形式が見られます。たとえて言えば、聖書の中には歴史、短い物語、田園詩、警告のことばを含む説教、評論、演説、手紙などがあります。また詩の中には叙情詩、戯曲、物語風の詩（そのうちのいくつかは叙事詩に近い）などがあります。さきのレッスンで述べたように、聖書の骨組は歴史であつて、その骨組がいま言った高度の文学上の形式をささえてつなぎ合せているのであります。そして、わたくしたちはこの高度の形式によつてのみ全体の真随をつかむことができるのであります。歴史は人間の行為を語ります。しかし、文学はもう一步掘りさげて、行為に関する人間の心の動きを語ります。文学は人間の野望と理想と争闘と失敗と成功とについて人間の心の中の生活を語る自叙伝であり

ます。聖書はこれまで、選ばれた民（イスラエル）の自叙伝であると言われています。自叙伝の中にはそれを書いた人の主観的の面と客観的の面とが二つともあらわれています。旧約聖書はイスラエルの民が述べたイスラエルの民の歴史であり、新約聖書は初期の教会が述べた初期の教会の歴史であります。

「聖書の中の散文」

或る批評家が、文学の巨匠といわれる人々について言いました「これらの人々は散文の筆者としてまことに偉大であつたとは言え、言葉の上でおそらく最大の散文作品である欽定訳英語聖書（キングジェームズ訳聖書）をつくった神学者の人々の足もとにもよれない」。聖書の精神だけでなく聖書の言葉で飽和している著者たちが、英国やその他の国の言葉で最上の散文（の作品）を多くのこしています。純粹でいかにも英語らしい、力強く雄弁な英語の散文

を特徴とするヴィクトリヤ期最大の巨匠であるジョン・ラスキンは、自分がすぐれていたのは、子供のころ母親から聖句をいくつもいくつもくり返しくり返し暗誦させられたのによると言いました。

これから聖書の中にある散文の傑作をいくつか考えることにしますが、このさい、傑作であることを説明するために一つ二つしかあげられないでしょう。

ほとんど詩といってもよいほどの申し分のない散文で柔和と献身が言いあらわされている良い例として、ルツがナオミに答えた有名なことばがすぐに心に浮んできます。

「しかしルツは言った、

あなたを捨て、あなたを離れて帰ることを

わたしにすめないで下さい。

わたしはあなたの行かれるところに行き

あなたの宿るところに宿ります。

あなたの民は、わたしの民、あなたの神はわたしの神です。あなたの死なれる所でわたしも死んで、

そのかたわらに葬られます。

もし死にわかれてなく

わたしがあなたと別れるならば

主よ、どうぞわたしを

幾重にも罰して下さい」。

(ルツ記一章十六—十七)

ルツ記がすぐれた散文であるのは、そのことばの運び方やならべ方によるばかりでなく、話のすじ人物の描写、そのほかすぐれた物語の中にあると同じ他の特徴をそなえているからであります。

またイエスのみことばは、すぐれた散文の絶好な例であります。

それらは次の例に見られるように、正確なことばづかいと比喩的な話しぶりによって生き生きとした印象がのこるような文になっています。

「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。

しかし、人の子にはまくらす所がない」。

聖書はこのようなすぐれた聖句がたくわえられている宝庫であります。

レッスンの手助け。

(一)最初に文の形式をはっきりときめ、次にその特色を指摘して

「短い物語」、「簡単な評論」、

「手紙」などを読み、聖書の中に

見られる散文の形式について説明を下さい。

(二)自分の好きな聖句を暗誦して下さい。

編集後記

▼早いもので一九六四年も終りを告げようとしています。心を新たにしてお発をしたこの一年間をふり返ってみるとさまざまな感懐が浮んでくることでしょう。

▼「聖徒の道」は十月号から前任者小林兄弟のあとを引き継いで私が担当してきました。未熟な編集でみなさまにごめいわくをかけてきましたが、新年を迎えるに当たって一層の努力をしたいと思えます。また「聖徒の道」は会員一人一人の信仰の道しるべなのでありますからみなさまのご協力をお願いします。

みなさまのうえに少しでも信仰生活にプラスするものがあることを期待しながら頑張っていきたいと思います。

それではよい歳をお迎え下さい。

(松浦)

図 書 案 内

教義と聖約		
高価なる真珠	上質革製合本	1100円
モルモン経		
教義と聖約	合本	300円
高価なる真珠		
モルモン経	(新訳)	300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは？	(新版)	150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用		
「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
基督・イエス		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは信じる	200円
我らは奉仕する(1965年度テキスト)	150円
生活の目標	150円
今日の十誡(1965年度テキスト)	250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え	200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌(新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……注文は各支部長へ……

支 部 所 在 地

北海道地方 旭川	旭川市八条五丁目 MIA集会場 旭川公会堂 電話(二一五五四五)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二八二二四)
札幌	札幌市北二条西二丁目 電話(六三七八六六)
東中央地方 群馬	高崎市並榎町二七五 甲府市山田町六三
松本	松本市幸町三八四 百瀬方 新潟市中大畑町五五七 電話(二一八六六〇)
仙台	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 東京都江戸川区小岩町六七八〇 電話(六五七二二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)

山形 横浜	山形市七日町二丁目十二ノ二十三 横浜市港北区篠原町二九 電話(四九一八七七二)
西中央地方 阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八 電話(六二一一八三七)
福岡	福岡市浄水町四六 福岡市古田町古江四〇〇ノ三 電話(三一六一三五)
金沢	金沢市上胡桃町一 京都市左京区下鴨松原町四四 名古屋市中昭和区北山町三ノ四一 電話(七三三四二一〇)
西宮	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四 電話(五一〇一四一)
岡町	大阪府豊中市岡町北二ノ一八 電話(二一一二六六)
岡山	岡山市北方七〇
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電話(八六一二六〇二)
柳井	山口県柳井市今市三九一 長崎県佐世保市山手町 TAIKEI HOUSE CO., LTD.
佐世保	
沖繩地方 普天間	沖繩宜野湾市野嵩区三二八 沖繩那覇市松尾区一三九 東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇二一四〇一〇)
那覇	
建築部事務所	

聖 徒 の 道

1964年12月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼 編集人 ダウエン・N・アンダーセン

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14

印刷所 合名会社 三五堂